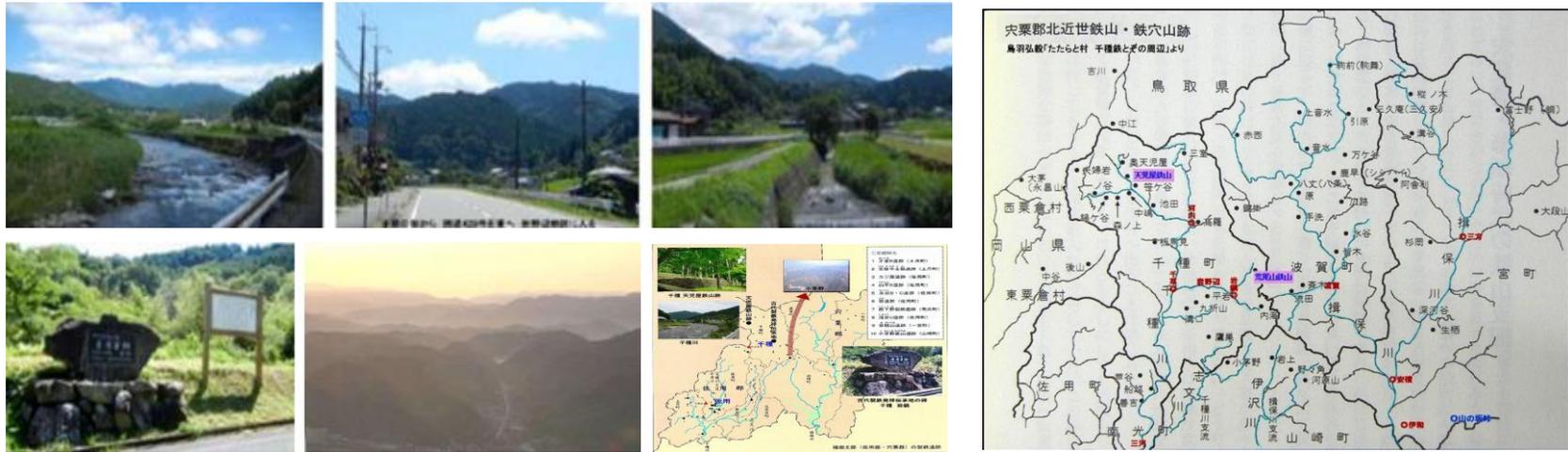


和鉄の道・Iron Road に掲載してきた記事をまとめてリストアップし、

そのうち4篇の概要記事を兵庫県西播磨県民局発行の案内冊子「たたらのはるさと」といっしょに掲載記録しました



◎ 「たたらのはるさと」 兵庫県西播磨県民局 発行 作成協力 宍粟鉄を保存する会・宍粟市・佐用町

◎ 和鉄の道・Iron Road 掲載 西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要記事 by Mutsu Nakanishi

◆ 和鉄の道・Iron Road 掲載 西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要記事リスト ◆

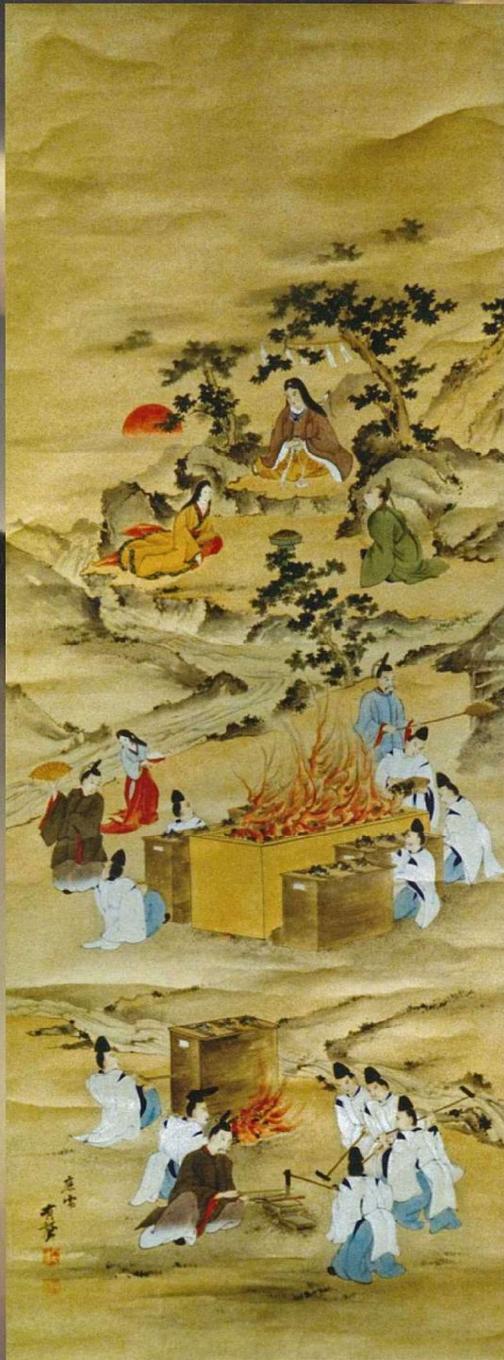
1. 和鉄のはるさと「千種・岩鍋」 2001. 1月掲載  
古代たたら製鉄神 金屋子神降臨伝承地「千種岩鍋」& 近世 千種鉄の中心 千種天兒屋鉄山遺跡
2. 播磨風土記 古代製たたら製鉄の中心地 「讃容(佐用)の里」Walk 2003. 11月掲載  
播磨風土記に掲載された西播磨 佐用の古代たたら製鉄の中心 佐用町大撫山周辺
3. 播磨風土記御方里(三方)周辺 平安時代末期の安積山製鉄遺跡探訪 宍粟郡一ノ宮町 2004. 2月掲載  
千種とならぶ西播磨 宍粟の古代たたら製鉄の中心地
4. 大阪の鉄商 泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋) 近世の荒尾山鉄山遺跡を訪ねる 2016. 8月掲載  
近世の千種鉄の中心生産地 千種天兒屋鉄山とならぶ中心の製鉄遺跡

# 和鉄の道・Iron Road 掲載 西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要記事 リスト by Mutsu Nakanishi

1. たたらの話 あれこれ [たたら製鉄概説] - 風来坊 和鉄の道を訪ねて - 2010.1月  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron01.pdf>
  - Iron road たたらの源流 ● 日本独自の直接製鉄法 たたら製鉄
  - たたらの語源 & 関連の言葉や地名 ● 奥出雲・播磨 たたら「金屋子神」の伝承
  - 日本各地に残る和鉄の道風景リスト ● 東アジア 鉄の歴史年表 中国・朝鮮・日本
2. 古代鉄の大王国 播磨国「千種鉄」古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承の地「岩鍋」2001.1月  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf>
3. 播磨国 風土記 和鉄の道【1】 2003.11月  
古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf>
4. 播磨国 風土記 和鉄の道【2】 2004.2月  
「御方里」周辺 安積山製鉄遺跡(平安末期の遺跡)探訪 一宮町  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf>
5. 播磨国風土記 和鉄の道【3】 2004. 6月  
産鉄の地 「御方里」の里を訪ねて 一宮町  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf>
6. たたら製鉄の原料 砂鉄採取の地形が残る西播磨 砥峰原 2007.10月  
初秋の西播磨の山郷 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf>
7. 奥播磨 かつてのたたら郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる 2009.6月  
奥黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町野々隅原 大国牧場 花のWalk  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf>
8. 奥播磨 千種川に注ぐ恋文川源流 2010.7月  
たたら郷 宍粟市山崎町小茅野(こかいの) 集落を訪ねる  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf>
9. 千種川流域のひまわり畑 と 製鉄神 天目一筒神の「天一神社」を訪ねる 2012.8月  
ひまわりの夏2012 古代たたら郷 佐用 西播磨佐用町(旧南光町) 林崎  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf>
10. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる 2013.7月  
千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる
  1. 江戸時代初期から明治まで操業の千種 西河内 天児屋鉄山跡再訪
  2. 今ヨリの花満開のちくさ高原の「ヨリ園」に立ち寄る
  3. 千種川水系千種から東の揖保川水系へ 山越ルート国道429号線  
宍粟の製鉄地帯の中心部 岩鍋の古代製鉄発祥の地碑 波賀・一宮町から山崎へ  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/13iron10.pdf>
11. 雨に先駆けて山麓の湿地に ひっそり咲くピンクの花 クリンソウ 2015.5月  
千種 天児屋たたら跡に咲くクリンソウを訪ねる  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/15iron08.pdf>
12. 奥播磨千種 古代の製鉄神金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺(岩鍋) 2016.8月  
近世の製鉄遺跡 大坂泉屋が経営した荒尾山鉄山遺跡を訪ねる
  1. 山崎と千種・佐用の境切窓峠を越えて 佐用下三河から千種川を遡って千種へ
  2. 千種から西へ国道429号 岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾 荒尾山鉄山遺跡へ
  3. 荒尾山鉄山製鉄遺跡 荒尾山中のたたら跡を歩く
  4. 国道29号線がトンネルで抜ける鳥ヶ岬 旧429号で山を登り 鳥ヶ岬の「峠」へ  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/16iron09.pdf>
13. 【風来坊・Country Walk】 毎年春になると待ちかねて 出かける播州路 2017.4.12.  
2017 春 たたらの郷 西播磨佐用へ 原チャリで駆ける
  - 2.1. 古代たたら郷の一本桜 漆野 光福寺の大糸桜  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/17walk06.pdf>
14. 奥播磨の中国山地から古代たたら郷を流れ出た千種川の河口 赤穂 2017.8月  
兵庫 100名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口 walk - 千種川 砂鉄の痕跡を探して -  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/17iron06.pdf>

【番外】 ■ 「初期大和政権の成立に大きな役割を演じた西播磨」  
西播磨で古墳時代後期末の鍛冶戸跡が出土有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる 2011.3月

【番外】 ■ 和鉄の道【3】口絵 2003 たたら製鉄が地域の自然や文化に与えた影響  
赤穂に塩田を作りだした播磨北部のたたら製鉄より  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/ir3kc04.pdf>



金屋子神掛図

# たたらとふるさと西播磨



■発行 兵庫県西播磨県民局  
〒678-1205 兵庫県赤穂郡上郡町光都2-25  
TEL 0791-58-2365 FAX 0791-58-2327

■作成協力 宍粟鉄を保存する会・宍粟市・佐用町

■印刷 有限会社サンスタジオコーポレーション  
■参考文献 「たたらと村一千草鉄とその周辺」 鳥羽弘毅 著  
「風土記」 吉野 裕 訳

22西播P2-007A4

「鉄は国家なり」と言われるように、古代から現代に至るまで、鉄産業は国家の政治・経済・文化を支える基幹産業として重要な役割を果たしてきました。現在でも世界の全金属生産量の約九四％は鉄が占めると言われ、日常生活を見渡しても、建築材・自動車・電化製品など多くのものに鉄が使われています。

西播磨地域では、古代から宍粟市や佐用町を中心に「たたら」と呼ばれる鉄づくりが盛んに行われていました。「たたら」は、砂鉄を木炭で燃やすことで、砂鉄から鉄を取り出す方法です。明治初期に西洋から鉄鉱石をコークスで燃やす近代的な製鉄技術が伝わるまで行われていました。特に宍粟市や佐用町で盛んに「たたら」による鉄づくりが行われていたのは、鉄づくりに適した良質な砂鉄と木炭の材料となる豊かな森林に恵まれていたからです。

### たたら神様 降臨伝説

宍粟市には、たたら神様である「金屋子神」が天から舞い降りたという伝説が残っています。島根県安来市広瀬町にある金屋子神社に伝わる祭文には、「村人が雨乞いをしていたところ、播磨国志相郡岩鍋という所に、天より神が舞い降り、驚く村人に「吾は金屋子神である」と告げられ、人々が安全に暮らせ、作物がよく実るようにと、傍らの岩石をもって鍋を作られた。このため、この地を「岩鍋」という。だが、ここには住み給うべき山がなく白鷺に乗って出雲の地に行かれた」と記されています。播磨国志相郡岩鍋は、現在の宍粟市千種町岩野辺のことであり、古代製鉄「たたら」のルーツは、この地にあるとも言われています。



国道429号脇に立つ「古代製鉄の神 金屋子神降臨の地 岩鍋」の碑 (宍粟市千種町岩野辺) →P11地図

### 「播磨国風土記」に見る鉄の産地

『播磨国風土記』は、奈良時代初期の和銅六年（七一三）頃に播磨国（現在の兵庫県南西部）の各地の地名の由来や産物、伝承などを朝廷に報告するために作成された記録です。この記録によると、当時の鉄の産地として、次の三ヶ所の記述があります。

〔1〕敷草の村（現在の宍粟市千種町）  
草を敷いて神の御座所とした。だから敷草という。この村に山がある。その南方十里ばかりのところに沢がある。広さは二町ばかりある。この沢に菅が生え、笠を作るのに最適である。檜・杉・栗・黄連・黒葛などが生える。鉄を産する。狼・熊が住む。

〔2〕御方の里（現在の宍粟市一宮町）  
大内川・小内川・金内川 大きい方の川を大内といい、小さいのを小内と称し、鉄を産するのを金内と称する。その山には、檜・杉・黒葛などが生える。狼・熊が住む。

〔3〕讃容の郡（現在の佐用郡佐用町）  
鹿を放した山を鹿庭山（現在の犬撫山→P15地図）と呼ぶ。山の四面に十二の谷がある。みな鉄を産する。難波の豊前の朝廷に初めて献上した。

\*「難波の豊前の朝廷」は、孝徳天皇在位の大化元年（六四五）から白雉五年（六五四）までの間であり、播磨国風土記が書かれた半世紀以上前には既に鉄の生産が行われていたことが分かります。

### CONTENTS

|        |      |
|--------|------|
| たたら歴史  | P 1  |
| たたら工程  | P 3  |
| たたら遺跡  | P 5  |
| たたら村   | P 7  |
| たたら流   | P 9  |
| たたらと名刀 | P 11 |
| たたら学習  | P 13 |
| たたらマップ | P 15 |

### たたら年表

| 年号   | (西暦)   | 出来事  |
|------|--------|--|
| 大化元  | (六四五)  | 讃容郡鹿庭山(現在の佐用郡大撫山)で鉄を作り、孝徳天皇に献上↓P 2                     |
| 白雉五  | (六五四)  | 鉄を作り、孝徳天皇に献上↓P 2                                       |
| 和銅六  | (七一三)  | 『播磨国風土記』の編纂始まる↓P 2                                     |
| 嘉暦四  | (一三二九) | 備前長船の刀匠景光と景政が宍粟郡三方西(現在の宍粟市波賀町小野)で作刀↓P 11               |
| 嘉吉元  | (二四四二) | 赤松満祐が備前長船の刀匠康光に播磨で三〇〇振りを作刀させ、將軍足利義教を暗殺(嘉吉の乱)           |
| 寛永二  | (二六二五) | 平瀬源右衛門清信が千草谷で鉄山開業。以降、平瀬家が宝暦六年(一七五六)まで六代百三十年余鉄山を経営↓P 10 |
| 寛永一〇 | (二六三三) | 平瀬家が山崎(現在の宍粟市山崎町)に出で千草屋を開く。後に大阪で支店鉄間屋千草屋を開設↓P 10       |
| 宝暦六  | (一七五六) | 山崎千草屋、鉄山経営から撤退。鳩屋孫右衛門が後を継ぎ、以降三代八〇年余鉄山を経営↓P 10          |
| 天保一〇 | (一八三九) | 平瀬露香生まれる↓P 10  |
| 安政四  | (一八五七) | 南部藩(現在の岩手県釜石市)で鉄鉱石を原料とした近代製鉄始まる                        |
| 明治一八 | (一八八五) | 天児屋、荒尾などの鉄山が閉山   |
| 昭和一九 | (一九四四) | 地質調査所の田邊健一技師(後に東北大学教授)が宍粟郡内のたたらによる鉄滓の堆積状況を調査↓P 5       |
| 昭和五二 | (一九七七) | 財団法人日本美術刀剣保存協会が島根県でたたら製鉄を復活↓P 11                       |
| 平成九  | (一九九七) | たたら里学習館がオープン↓P 14                                      |
| 平成九  | (一九九七) | 千種中学校で第一回たたら総合学習を実施(以降毎年実施)↓P 13                       |
| 平成一九 | (二〇〇七) | 「宍粟鉄を保存する会」が発足   |

近世(江戸時代)の「たたら」は、次の四つの工程で成り立っていました。

1 鉄六流し (水路に砂鉄を含んだ土砂を流し、比重によって砂鉄を分離する)



鉄穴口(掘り場)  
砂鉄を多く含む風化した花崗岩の山を掘り崩し、水路に流下させ、比重によって、砂鉄と土砂を分離しました。



砂鉄洗い揚げ場  
秋の彼岸から春の彼岸までと期間が定められていて、村人たちは農閑期の稼ぎに鉄穴師の下で働きました。

2 炭焼き



大炭・小炭焼き  
大炭は炉で砂鉄を溶かすために使う炭。小炭は炭素の含有量の多い銃鉄などから炭素を減らして割鉄を作る大鍛治用の炭。

3 鉄づくり (炉を造り、砂鉄を木炭で燃やす)



炉づくり  
炉を造る粘土を元釜土といい、出来る鉄の質と量に大きく影響するので、土の選定は村下の重要な役割でした。

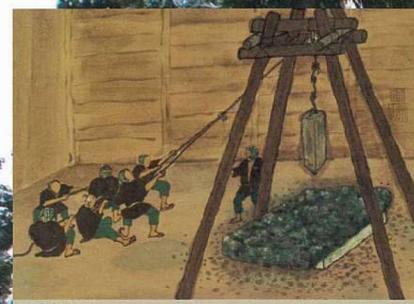


鉄吹き  
村下の指図のもと砂鉄と木炭を追い比べしながら、三昼夜吹き続けました。



鉞出し  
四日目の早朝炉を壊して、約4トンの鉞(鉄の塊)を引き出し冷却しました。一工程を一代といいます。年間50代ほど操業しました。

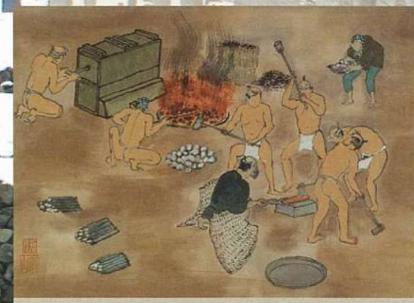
4 割鉄づくり (炉から取り出した鉞を小割にし、脱炭して割鉄に仕上げる)



銅場  
冷却した鉞は銅場で大割り、中割り、小割りして拳ほどの大きさにしました。



選別  
割った鉞は、鋳・歩鉞(鋳より質の劣る鉄)と銃に選別しました。



大鍛冶  
鋳物鉄としてそのまま出荷する以外の銃は、左下場で脱炭(炭素を減らす)して左下鉄とし、歩鉞と合わせて本場で質の均一な割鉄に仕上げました。

### 鉄山跡

たたら製鉄が行われていた場所は、「鉄山跡」と呼ばれています。鉄山跡には、今も鉄滓（砂鉄を溶かす際、砂鉄に含まれていた不純物が溶け出して固まったもの。一般的に「かなくそ」と呼ばれている。）がたくさん落ちています。昭和十九年（一九四四）に地質調査所の田邊健一技師（後に東北大学教授）が、一ヶ月間にわたり当時の宍粟郡内のたたらによる鉄滓の堆積状況を調査されています。その報告書によると、宍粟郡内には、二七ヶ所の堆積地があり、その堆積量は、三二・七万トンと記されています。堆積地は、千種町をはじめ、山崎町、一宮町、波賀町の郡内全域に及んでおり、広い範囲でたたら製鉄が行われていたことが分かります。

これは、たたら製鉄が、多量の木炭を必要とし、長年同一場所で作業すると、近辺の雑木林がなくなり、木炭の運搬に困難をきたしたため、新しい場所を次々と求めたことによると考えられています。

宍粟郡内の鉄滓の堆積状況  
(昭和19.4.20~5.23調査)

| 地域  | 現在の市町域           | 堆積箇所 | 堆積量(万) |
|-----|------------------|------|--------|
| 千種谷 | 宍粟市千種町<br>佐用郡佐用町 | 139  | 19.0   |
| 志文谷 | 宍粟市千種町<br>宍粟市山崎町 | 37   | 6.0    |
| 岩上谷 | 宍粟市山崎町           | 18   | 0.8    |
| 引原谷 | 宍粟市波賀町<br>宍粟市一宮町 | 67   | 5.2    |
| 三方谷 | 宍粟市一宮町           | 12   | 0.7    |
| 計   |                  | 273  | 31.7   |

(\*) 出典：田邊健一「兵庫県宍粟郡下の「たたら」鉄滓調査報告」



豪壮な石積みの天尾屋鉄山跡(宍粟市千種町西河内)

天尾屋鉄山跡(兵庫県指定史跡)

荒尾鉄山跡(宍粟市指定史跡)

宍粟市千種町岩野辺にあり、入口には、安全祈願の石仏が立っています。この鉄山跡より上流三〇〇メートルほど上がった所に「金屋子神」が天から舞い降りたとされる所があり、桂の木、古い株があつて、根元に小さな祠の跡があります。↓P15地図⑧

宍粟市千種町西河内にある宍粟市を代表する鉄山遺跡。背後の広大な山林を利用してたくさん鉄を産出しました。遺跡は中世の山城を思わせるような豪壮な石積みがなされています。昭和五九年から実施された調査によって、炉の地下構造が明らかになり、地下四メートル近く掘り込んで、入念に排水、防湿の工事が施されています。↓P15地図④



荒尾鉄山跡の石仏(宍粟市千種町岩野辺)

宍粟市千種町西河内にあり、鉄山跡の横を流れる川の向かいの斜面

には、鉄山で働いていた職人や家族のものと思われる荒れ果てた墓石が二〇〇基余り残されています。↓P15地図⑤



高羅鉄山跡の墓石群(宍粟市千種町河内)

### 鉄穴流し場

鉄穴流し場は、山腹に人工の水路と数ヶ所の溜池を作り、そこに砂鉄を含んだ土砂を流しました。軽い土砂は、池の下流に排出され、砂鉄を含んだ重い土砂は池の底に残りました。これを何度か繰り返すことで、砂鉄の純度を高め、良質の砂鉄を採取しました。

宍粟市千種町西河内にある「森の上鉄穴流し場」(宍粟市指定史跡)は、通常の水路が、山肌にて二〜四キロメートルにわたって掘られているのに対し、ここでは、最初の砂溜池から最後の池まで約三〇〇メートル(高低差四五メートル)という短い距離で仕上げるよう水路を直角に曲げたり、滝のように落差を作ったり工夫をこらした構造となっています。

鉄穴流しは、川水を濁して田の稲に影響を及ぼさないよう秋の彼岸から春の彼岸までの冬の期間に限られて行われていました。↓P15地図②



森の上鉄穴流し場(平面図)



森の上鉄穴流し場(宍粟市千種町西河内)

### 砂鉄の種類

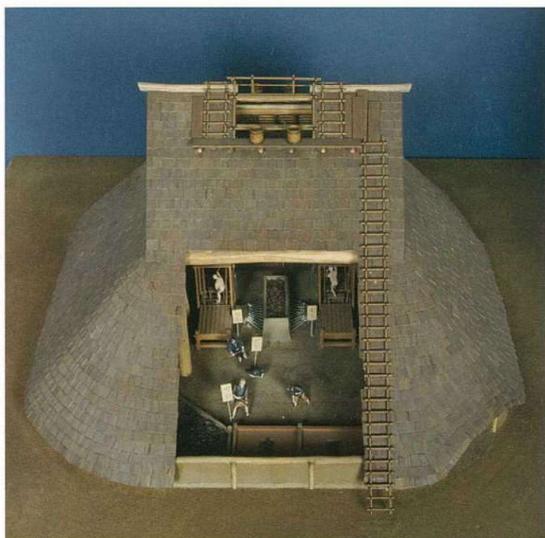
砂鉄は、我が国のように火山・火成岩地の多い所ではどこでも取れ、次の二種類に分類されます。

- ① 真砂・砂鉄  
花崗岩・花崗斑岩など酸性の母岩が風化したものの中に含まれる黒色で光沢があり、硫黄・燐・チタンなど不純物が少ない鉄の品位が高い砂鉄。
- ② 赤目砂鉄  
閃緑岩・安山岩など塩基性の母岩からできた赤褐色のもので、真砂鉄に比べ、不純物が多く含まれ、鉄の質がやや劣る砂鉄。

全国的には赤目砂鉄が取れる地帯が多い中で、宍粟の山の土は、花崗岩の風化した真砂鉄を多く含み、たたら製鉄には最も適したものでした。この良質の砂鉄から生み出された「宍粟鉄」は高い品質を誇っていました。

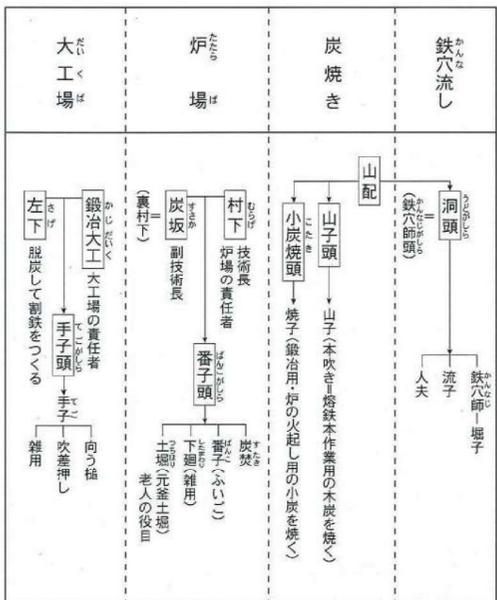
近世（江戸時代）のたたら製鉄は、大規模な施設をつくり、三〇〇五〇戸の集団が同一場所、十数年から数十年にわたって操業するたため一つの村を形成していました。

作業は、鉄穴流し、炭焼き、炉場、大工場の4つに分業され、職制組織が成り立っていました。このため、作業の流れに従って、手順よく施設が配置され、砂鉄を木炭で燃やすための炉のあった「高殿」を中心として、勘定場（管理事務所）、大鑪場（炉から引き出した鋸を分割する所）、鍛冶小屋、砂鉄小屋、炭小屋、山内小屋（職人・家族の住居）などから構成されていました。



「高殿」の模型（宍粟市千種町 たたらの里学習館）

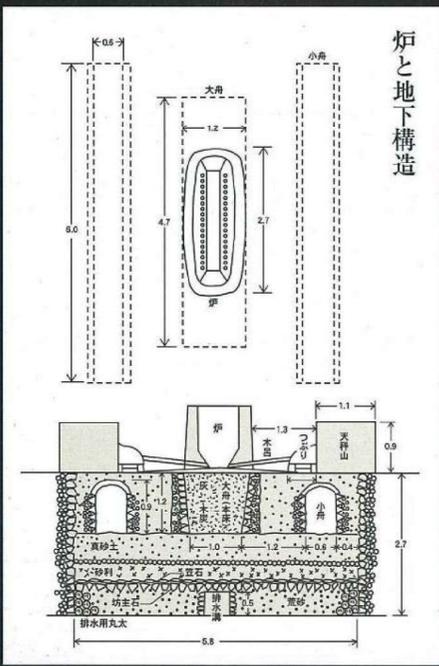
職制組織



天児屋鉄山の配置図



炉と地下構造



炉の構造

たたらへの三要素は、砂鉄と木炭と元釜土と言われています。元釜土は炉を作る粘土で、その良し悪しが鉄のでき方に大きく影響しました。したがって元釜土の選定と炉の作り方は村下（砂鉄溶解作業の総責任者）の炎の色、熱、光などから判断し、数種の砂鉄を使い分け、炉への投入を指示した。の重要な役割でした。

製鉄作業は極端に湿気を嫌いました。湿気が残ると、蒸気爆発を起したり、炉内の温度が上がらず、鉄の溶解が進まないという事態を引き起こしたりしました。このため、炉の下部を舟底状に掘り、空焚きをして底部を硬く乾燥させ、木炭や炭などを敷き詰め、湿気が知に上がらないようにしました。

たたら唄

鉄が沸く沸くよしの山で  
手前な黄金で五十五だん  
寒や北風冷たかろう鉄穴師さん  
わたしの思いで南風とする  
婿に持つなら鉄穴師さんがよかる  
花の三月山住まい  
行くぞ皆さんあの山越えて  
鉄砂七里に炭三里  
男もつなら大工さんか左下さん  
たたら番子にややるなかれ  
たたら番子は乞食より劣る  
乞食 寝もする菜もする

\*「鉄砂七里に炭三里」とは、砂鉄は容積が少なく運搬しやすいが、木炭は容積が大きく遠距離の運搬は高くついたので、運搬距離の限界は、砂鉄が七里（約二八キロメートル）、木炭が三里（約一二キロメートル）と言われていました。

\*「番子」は炉の温度を上げるために風を送る「ふいご」を蹴る労働者のこと。たたらへの操業は、三日間、昼夜なく行われたため、寝る間もなく、重労働で嫁の来てもないと言われました。順番に交代することを「かわりばんこ」と言いますが、語源はここから来ていると言われています。

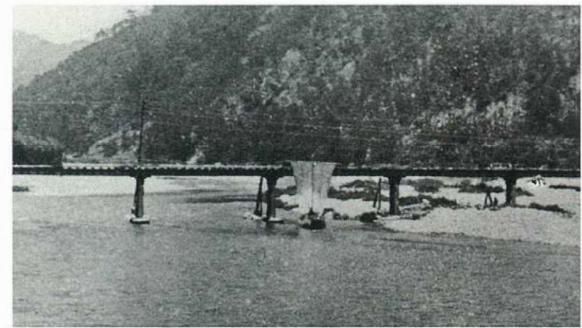
### 宍粟鉄の運搬経路

宍粟鉄は、備前長船の刀匠が活躍していた中世末までは、主に西を向いて岡山方面に運搬されてきましたが、近世初めには、山崎（現在の宍粟市山崎町）に問屋ができ、揖保川の高瀬舟による運搬が始まると、東を向いて、姫路・大阪方面へ盛んに運搬されました。

### 揖保川の高瀬舟

揖保川の高瀬舟は、中世には、水量が多く、激流のない現在のたつの市北部まで運行されていたが、現在の宍粟市の山崎まで運行が延びたのは、江戸初期と言われています。山崎へは、一五〇艘以上の船が行き来していたと考えられています。下りは年貢米、薪炭、鉄類など地域の特産品を運び、上りは、塩、味噌などの日用品を運んでいました。

山崎の舟着場は、現在の宍粟市役所庁舎の東の河川敷にあったことから、河川整備にあわせて復元が計画されています。↓P15地図⑩



揖保川の高瀬舟(1920年頃、現在のたつの市新宮町付近 出典:「龍野市史 第3巻」)

宍粟鉄の主な運搬経路



### 平瀬家の鉄山経営

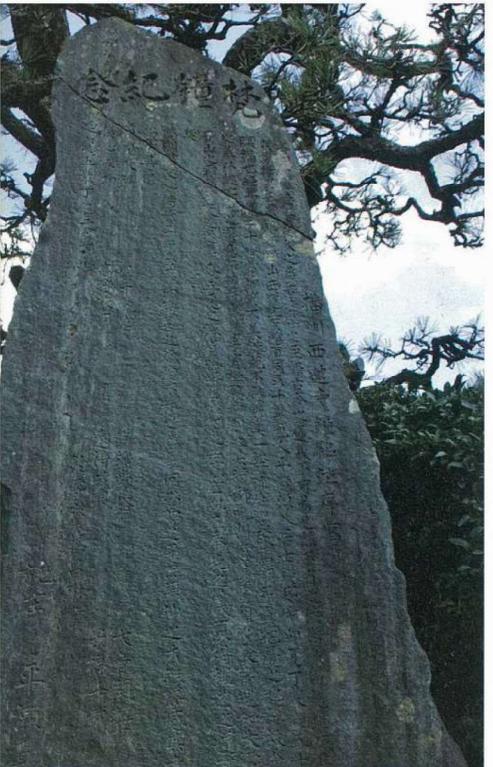
平瀬家は、初代源右衛門清信から代々「源右衛門」を名乗り、六代源右衛門布古まで約一三〇年間にわたり、宍粟で鉄山経営を行いました。初代清信は、寛永二年(一六二五)から千草谷で鉄山経営を始め、寛永一〇年には、次男保古を連れて当時の宍粟郡経済の中心地山崎に出て千草屋を開き、ついで三男道閑を大阪に出して、鉄問屋千草屋を開店させました。

二代保古は、高瀬舟の所有を許され、鉄の生産・運搬・販売の一貫

貫経営を行い、寛文一一年(一六七二)頃に宍粟郡内のほとんどの鉄山を独占経営しました。享保一八年(一七三三)に六代布古が山崎千草屋を継ぎましたが、次第に家運が傾き、宝暦六年(一七五六)に山崎千草屋は鉄山経営から撤退しました。その後を鳩屋孫右衛門が引き継ぎ、それ以降三代八〇年余にわたり鉄山を経営しました。

### 西蓮寺の石碑

宍粟市千種町千草にある西蓮寺の境内に、一体の石碑が立っている



西蓮寺の石碑(宍粟市千種町千草)

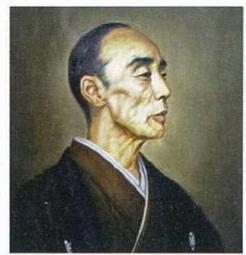
貫経営を行い、寛文一一年(一六七二)頃に宍粟郡内のほとんどの鉄山を独占経営しました。享保一八年(一七三三)に六代布古が山崎千草屋を継ぎましたが、次第に家運が傾き、宝暦六年(一七五六)に山崎千草屋は鉄山経営から撤退しました。その後を鳩屋孫右衛門が引き継ぎ、それ以降三代八〇年余にわたり鉄山を経営しました。

### 最後の粹人 平瀬露香

(一八三九-一九〇八)

平瀬露香は、天保一〇年(一八三九)に大阪の富裕な両替商「千草屋」に生まれました。幕末維新の激動期に当主となった露香は、維新の動乱を何とか乗り切り、近代大阪財界の要職を歴任した財界人である一方、茶道や能楽など三一もの趣味を極めて「上方の最後の粹人」と称されました。

露香を生んだ平瀬家は、大阪で鉄販売のみならず、その流通網を利用した諸国物産の間屋経営や大名への貸し付けを行い、



平瀬露香肖像画 松原三五郎作 個人蔵 (出典:「大阪歴史博物館特別展図録集」)

経済力を蓄えました。明治四年(一八七二)の調べでは、千草屋の諸藩への貸し付けは、約四〇藩にわたり、その額は幕府を含めて実に七六万両に及んでいました。金一両が米一石の相場で、現在の米価に換算すると約四〇〇億円に近い莫大な金額でした。



山崎千草屋を経営した平瀬家の菩提寺である大雲寺(宍粟市山崎町上寺)→P15地図⑩

日本刀は日本固有のもので、世界の鉄工芸品の中でも最高峰に位置づけられています。これは、日本刀が武器として「折れず、曲がらず、良く切れる」ことをめざして、刀匠（刀を作る職人）が心血を注いで工夫を積み重ねてきたからです。

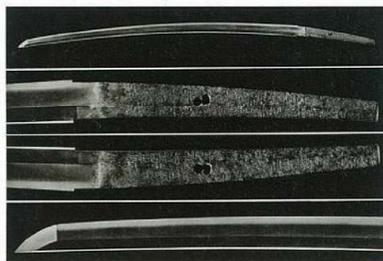
日本刀の原料となる鉄は、特に「玉鋼」と呼ばれ、日本古来の製鉄技術である「たたら」によって生産され、その品質は他に比較がないほど優れたものでした。

日本刀最大の生産地は、備前国（現在の岡山県東部）です。平安時代から多くの有名な刀匠を輩出し、鎌倉時代には、わが国の作刀



日本刀の原料となる玉鋼  
(岡山市千種町 たたら里学習館蔵)

の中心地となりました。現在、国宝や重要文化財の刀剣八〇〇余りの約半数は、備前刀と言われています。江戸時代の刀剣鑑定入門書である「察刀規矩」には「播州宍粟鉄また千草鉄ともいう。水折れ折れ口白く光り至極細やかなるを」と評しています。この鉄にて作りたる道具は刃色白く細かに見ゆる・・・備前の鍛冶多くこの鉄を使う」と記されています。当時、「宍粟鉄（千草鉄）」は、ブランド化し、備前の刀匠たちに珍重されていたことが分かります。

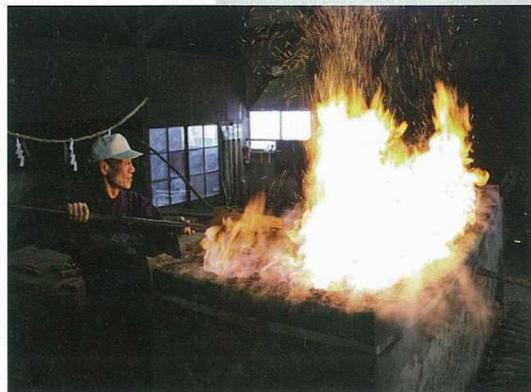


嘉永4年(1329)に備前長船の刀匠景光と景政が宍粟郡三方西(現在の宍粟市波賀町小野)で作ったことが銘に刻まれた国宝の太刀(埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵 出典:「日本刀大鑑 古刀編二」)

### 日刀保たたら

たたら製鉄は、明治初期に近代的な西洋式の製鉄技術が導入され、廃れてしまいました。刀匠たちは、日本刀の原料となる鋼が入手できず、困っていました。このため、財団法人日本美術刀剣保存協会(略称「日刀保」)が、昭和五二年(一九七七)、鳥根県横田町(現在の奥出雲町)でたたら製鉄を復活させました。

毎年一月から二月の約三週間、日本で唯一のたたら製鉄の操業が行われています。これを「日刀保たたら」と呼んでいます。毎年春頃、この「日刀保たたら」で作られた鋼は、作刀技術の保存と伝承のため、全国の刀匠(約二五〇人)に提供されています。



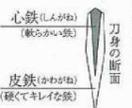
「日刀保たたら」の様子(鳥根県奥出雲町)

## 日本刀の製作工程

1 材料の玉鋼(たまがね)を薄く平らに打ち延ばし、焼きを入れる。(水に入れて急冷する)。



2 玉鋼を小割りし、硬くてキレイなものと軟らかいものに分ける。



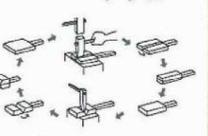
3 同質の鋼で作った台の上に、それぞれ積み重ねる。



4 およそ一三〇〇度まで、松炭を使って熱し、鍛接(たんせ)をついたたいてくっつける。



5 切れ目を入れて何度か折り返す。「折り返し鍛接」。



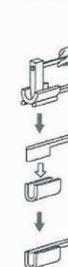
6 短冊状に切り分け、並べる。「拍子木づくり」。



7 拍子木づくりしたものを鍛錬する。「仕上げ鍛接」。



8 軟らかい芯となる心鉄(しんがね)に硬い皮鉄(かわがね)をかぶせ、焼いて長く伸ばしていく。「素延び」。



9 長く伸ばしたものを小槌を使って日本刀としての形に整えていく。このとき、切先(きつさき)も打ち出す。「火造り」。



10 火造りしたものを「セン」という鉋(かんな)のような道具とヤスリで形を整えていく。



11 刀身を一樣に加熱(約八〇〇度)したものを水槽に入れて急冷する。日本刀の反りにこのときに加わる。「焼き入れ」。



12 反りを修正し、荒砥ぎを経て、研師(とぎし)など他の職人へ渡す。

### ◆インタビュー◆ 刀匠 高見國一さん

- Q 刀匠になろうと思われたのはどうしてですか?  
A 日本刀の写真を見た時、その美しさに思わず引き寄せられました。刀の写真の横に刀匠の顔写真が載っており、今でも刀が作られていることを知り、自分にはこの道しかないと感じました。
- Q 刀づくりの魅力はどこにありませんか?  
A 世界無比の鉄の芸術と言われる日本刀を自分の手で作れることです。私にとって人生をかけて値する仕事だと思っています。
- Q 刀づくりで一番苦労されていることは何ですか?  
A 上手くなればなるほど、自分の理想も要求も高くなります。とにかく失敗にめげないこと、負けないことです。
- Q 刀の原料となる鋼はどうやって入手されていますか?  
A 鳥根県奥出雲町の「日刀保たたら」で作られた玉鋼を購入しています。また戦前までの釘や農機具などに使われていた和鉄を集め、それを使ったりしています。
- Q 宍粟鉄は高見さんにとってどんな鉄ですか?  
A 現存する多くの名刀に使われた素晴らしい鋼です。今も宍粟鉄があるならば、私もそれを使ってぜひ刀を作りたいです。
- Q 今後の目標をお聞かせください。  
A 他の追従を許さないような仕事ができるよう、日々努力していきたいです。



PROFILE  
高見國一 (たかみくにいち)  
昭和48年、佐用町に生まれる。佐用高校を卒業後、平成4年に奈良県東吉野村の刀匠河内國平さん入門。厳しい修行を経て、平成10年、刀匠(美術刀剣類製作承認)の資格を取得。新作名刀展に初出品初入選。その後、数々の賞を受賞。平成11年に独立し、佐用町家内(けない)に鍛刀場を開設。平成22年には、二度目の日本一となる「日本美術刀剣保存協会会長賞」を受賞。



宍粟・佐用の鉄 関連 掲載記事一覧 2018.5.5.



製鉄神 金屋子神と千種 古代製鉄発祥の地伝承

播磨国宍粟(粟)郡の山間の村岩鍋に天から神が示現。「わたしは金山彦。天目一箇神ともいう金屋子神である」と明かす。



村人にタタラによって鉄を作ることを教え、様々な道具を作る技術を人々に授けた。そして、「これから西の方へ行き、鉄を吹き道具を作ることをさらに多くの人々に教えねばならない」と、白鷺に乗って天空高く飛び立った。その後、金屋子神は出雲国に飛来し、能義郡比田の森に降り立ったと言う。

- 1. たたらの話 あれこれ [たたら製鉄概説] - 風来坊 和鉄の道を訪ねて - 2010.1月  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron01.pdf>  
 ● Iron road たたらの源流 ● 日本独自の直接製鉄法 たたら製鉄  
 ● たたらの語源 & 関連の言葉や地名 ● 奥出雲・播磨 たたら「金屋子神」の伝承  
 ● 日本各地に残る和鉄の道 風景リスト ● 東アジア 鉄の歴史年表 中国・朝 2010.1 鮮・日本
- 2. 古代鉄の大王国 播磨国「千種鉄」 古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承の地「岩鍋」 2001.1月  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf>
- 3. 播磨国 風土記 和鉄の道【1】 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて 2003.11月  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf>
- 4. 播磨国 風土記 和鉄の道【2】 「御方里」周辺 安積山製鉄遺跡(平安末期の遺跡)探訪 一宮町 2004.2月  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf>
- 5. 播磨国風土記 和鉄の道【3】 産鉄の地 「御方里」の里を訪ねて 一宮町 2004. 6月  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf>
- 6. たたら製鉄の原料 砂鉄採取の地形が残る西播磨 砥峰高原 2007.10月  
 初秋の 西播磨の山郷 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf>
- 7. 奥播磨 かつてのたたら郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる 2009.6月  
 奥黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町野々俣原 大國牧場 花のWalk  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf>
- 8. 奥播磨 千種川に注ぐ恋文川源流 2010.7月  
 たたらの郷 宍粟市山崎町小茅野(こがいの) 集落を訪ねる  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf>

- 9. 千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一箇神」を祭る「天一神社」を訪ねる 2012.8月  
 ひまわりの夏 2012 古代たたら郷 佐用 西播磨佐用町(旧南光町) 林崎  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf>
- 10. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる 2013.7月  
 千種天見屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる  
 1. 江戸時代初期から明治まで操業の千種 西河内 天見屋鉄山跡再訪 学習館併設のたたら公園  
 2. 今ユリの花満開のちくさ高原の「ユリ園」に立ち寄る  
 3. 千種川水系千種から東の揖保川水系へ 山越ルート国道429号線  
 宍粟の製鉄地帯の中心部 岩鍋の古代製鉄発祥の地碑を見て 波賀・一宮町から山崎へ  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/13iron10.pdf>
- 11. 雨に先駆けて山麓の湿地に ひっそり咲くピンクの花 クリンソウ 2015.5月  
 千種 天見屋たたら跡に咲くクリンソウを訪ねる  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/15iron08.pdf>
- 12. 奥播磨千種 古代の製鉄神金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺(岩鍋) 2016.8月  
 近世の製鉄遺跡 大坂泉屋が経営した荒尾山鉄山遺跡を訪ねる  
 1. 山崎と千種・佐用の境切窓峠を越えて 佐用下三河から千種川を遡って千種へ  
 2. 千種から西へ国道429号 岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾 荒尾山鉄山遺跡へ  
 3. 荒尾山鉄山製鉄遺跡 荒尾山山中のたたら跡を歩く  
 4. 国道29号線がトンネルで抜ける鳥ヶ丸 旧429号で山を登り 鳥ヶ丸の「峠」へ  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/16iron09.pdf>
- 13. 奥播磨の中国山地から古代たたら郷の流れ出た千種川の河口 赤穂 2017.8月  
 兵庫 100 名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口 walk-千種川 砂鉄の痕跡を探して -  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/17iron06.pdf>

- 【番外】 ■ 「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」 2011.3月  
 西播磨で古墳時代後期末の鍛冶炉跡が出土有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron02.pdf>
- 【番外】 ■ 和鉄の道【3】口絵 2003 たたら製鉄が地域の自然や文化に与えた影響 2004.1月  
 赤穂に塩田を作りだした播磨北部のたたら製鉄より  
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/ir3kc04.pdf>



1.

「たたら」製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地

和鉄のふる里『千種・岩野辺』

chigsal.htm by M.Nakanishi

- 1.1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鍋 Country Walk  
古代製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地 COUNTRY WALK
- 1.2. 古代製鉄の神 金屋子神社 COUNTRY WALK と 金屋子神 神話島根県 広瀬町
- 1.3. 兵庫県立歴史博物館【1】 「千種鉄 たたら」 ビデオライブラリー
- 1.4. 兵庫県立歴史博物館【2】 兵庫歴博ゼミナール「発掘が語る兵庫の歴史 兵庫の鉄」

1.1. 和鉄のふる里『千種・岩野辺』



- 1. 和鉄「千種鉄」のふるさと『兵庫県 千種・岩鍋』とその歴史
- 2. 千種 天児屋たたら公園と天児屋鉄山跡
- 3. 古代金屋子神降臨の地 岩野辺(岩鍋)

1. 『兵庫県 千種』とその歴史

金屋子神 千種岩鍋 降臨の伝承

播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。  
民驚きて「如何なる神ぞ」と問いまつる。  
時に、神託げて曰く、「われは是れ、作金者金屋子の神なり。…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として、白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。  
出雲国の野義郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて…

島根県 広瀬町 「金屋子神社」祭文より



国道沿い千種岩野辺に建つ 金屋子神 降臨の碑



兵庫県千種の位置  
兵庫県宍粟郡 岡山県との境



千種鉄 和鉄 発祥の地 千種 と 千種川



国道沿い千種岩野辺に建つ 金屋子神 降臨の碑

兵庫県の西端 中国山脈の南側山懐 岡山県との県境にそびえる三室山から氷ノ山にいたる山塊を背景にそこから流れ出る千種川に沿って千種の街が広がる。

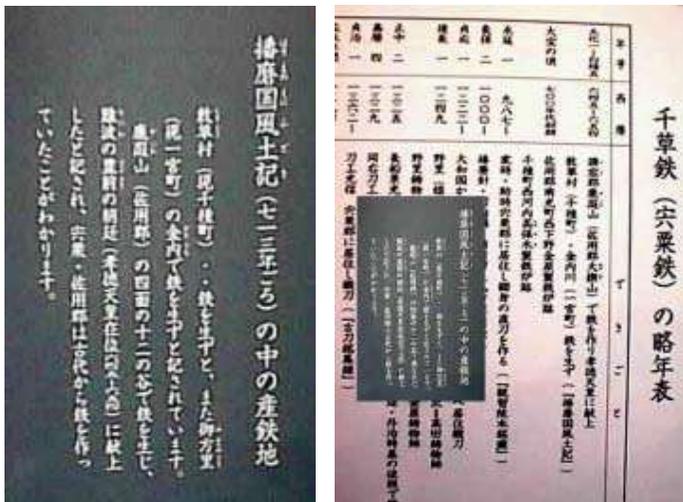
ここは 中国山地の山懐千種川の源流に位置し、ここから算出する砂鉄を用いた「和鉄」発祥の地「千種鉄」の産地として古代から製鉄が盛んに行なわれたところである古代 金屋子神 千種 岩鍋の地への降臨伝説や「播磨風土記」にも記載があり、7,8世紀には盛んに製鉄が行なわれていたことが解っている。

また 伝承によると神功皇后が朝鮮出兵の帰りに瀬戸内海を通られ、千種川の河口が濁っているのに驚かれ「なぜ濁っているのか」とお供の者に尋ねられると「この川上で天児屋根命の子孫が、鉄砂(カンナ)流しをしているからです。」と答えたと言い伝えられている。  
千種が古代より製鉄の産地であったことがこれらの資料からもしのべれます。  
千種川を下ると播州赤穂市、その隣には岡山県備前市があります。中世、千草鉄は備前の刀匠たちに珍重され、数多くの国宝重文の名刀を残しています。そして、西洋鉄に取って変られる明治まで、長きにわたって、和鉄の一大製鉄産地であった。



千種川の流れ出る三室山の峯峰

● 播磨風土記 記載



713年頃 「敷草村〔現千種村〕金内川〔現一宮町〕で鉄を生ず」との記載  
千種「たたら学習館」展示より

● 金屋子神 伝承 と 千種 岩野辺〔岩鍋〕



**島根県能義郡広瀬町の金屋子神社の祭文**

『播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。民驚きて如何なる神ぞと問いまつる。時に、神託げて曰く、『われは是れ、作金者金屋子の神なり。…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん』として白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。出雲の国の野義の郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて……』

千種の岩鍋（現在の岩野辺）に天から金屋子の神が降り立ち、驚いた人々が何をされる神かと尋ねたら、金屋子の神であると応えさらにその地で鍋を作り、さらに金屋子の神は白鷺に乗られて現在の島根県能義郡に行かれたとも書かれている。 岩野辺の地名の由来は、ここから来ているとも言われている。

- 金屋子神社は「たたら製鉄」の守り神 島根県 広瀬町 金屋子神社 金屋子神神話

2. 千種 天児屋たたら公園 と 天児屋鉄山跡



A. 整備前の旧天児屋鉄山跡 walk 1990. 5. 26.

わたしが最初に千種を訪問したのは1990年5月。千種の街には立派な歴史資料館があり、そこには貴重なたたら関係の資料などが展示されている。三室山の谷筋には現在も「たたら」の遺構〔天児屋鉄山遺跡〕が残っていると教えてもらい、千種の街の北側千種側沿いに広がる千種・三室高原へ登って行きました。千種は岡山と兵庫の県境に位置し、周りを山に囲まれ 三室山を水源とするきれいな千種川が流れています。この川の源流近くく筋もの谷筋が砂鉄の宝庫で、古代からこの砂鉄をむ原料とした鉄生産が行なわれてきた。

〔資料によると千種の山々の花崗岩、閃緑岩、石英粗面岩などの地層にはすぐれた真砂鉄が含まれていて、今めざす天児屋鉄山跡ばかりでなく、高羅、荒尾鉄山など近世の遺跡や町内の至る所に点在する小規模な古い時代の「たたら」遺跡が点在している。〕



千種川とその川のふちに堆積した黒い砂鉄

川に下りるときれいな清流の川底には幾筋もの黒い堆積物があり、この川底の黒い堆積をすくいとり、磁石に近づけるとピツパリと吸いつき、紛れもなく砂鉄。今も川筋に在る砂鉄にビックリし、また ここが千種鉄の発祥地であることに今更ながら納得。

この地が古代日本の鉄発祥の地。「製鉄の神である金屋子神がこの千種に舞い降り、そこから吉備を経て奥出雲へ」という金屋子神伝説を頭に、透き通るような青空にそびえる県境の山々をながめながら、三室山の谷筋を上って行きました。もっとも 金屋子神が舞い降りたといわれる「岩鍋の地」は今登ってゆこうとする千種の街から北に広がる千種三室高原とは異り、千種の街の南から東へ波賀町へ抜ける国道を峰床山越えの山々へ向って行

く途中にある。

この千種川の周辺の山々いたる所が 古くからの千種鉄の山地として活用されてきたのだろう。

千種高原三室山へは舗装された立派な道路が岡山県境へ伸びており、途中で谷筋へ分け入る道に曲がり、登って行くとその途中に「鉄山橋」の名の橋があり、そこから少し登ったところそこが天児屋鉄山跡の草ぼうぼうの山端の道沿いに石垣と倒れかかった天児屋鉄山の看板があるのみだった。

草ぼうぼうで中に入れず、荒れ果て道からは全くここが鉄山であることがわかりませんでした。看板だけが、鉄山跡であることを示していました。



天児屋鉄山は元禄年間、千草屋源右衛門が切り開いて鉄を吹き、泉屋（住友の分家）が 経営していたこともあるそうです。

明治九年ごろの鉄山が終わりに近づいた時代（閉山は明治十八年）にも七十戸三百人以上の人たちが働いていたといわれ、近世たたら遺跡の中でも規模の大きなたたら遺跡であるが、その時は全くわからず。

何回か訪れている間にこの鉄山遺構が整備されはじめ、金屋児神を祭る祠をはじめとして、製鉄跡 カンナ流し場等が姿を現わしてきました。そして1997年 川筋には立派な「たたら学習館」が立ち、鉄山跡も立派な製鉄遺跡として整備されました。

## B. 整備された天児屋鉄山跡 天児屋たたら公園 と たたら学習館 1999. 5. 26.

スギの森の中に、山城を思わせるようなコケむした石垣が、段々状に続いて、草木の明るい若葉と対照的なコントラストを見せて道から少し上がったところには金屋子神が立派に祭られ「天児屋たたら公園」として整備されていました。

### 現在の天児屋鉄山跡 天児屋たたら公園 1999. 5.



日本の「たたら」製鉄発祥の伝説の地「千種」に多くの人たちがかかわった「たたら」製鉄の主要現場がすべてそろって跡地として残っている。それが、天児屋鉄山。

日本を造り、日本の発展を古代から今に至るまで支えた鉄。その日本固有の製鉄法である「たたら」の製鉄現場と勘定場など一連の作業場が鉄山としてこの製鉄発祥の地に復元整備されれば意義の深いものとなるとおもうのですが……

日本各地にある同じような幾つもの「たたら館」。それはそれでその地方を支えた鉄の歴史を担うものとして意義があるでしょうが… 。 さあ どうでしょう。

2001. 1. 8. 昔の資料を整理しつつ by M. Nakanishi

by M. Nakanishi 2001. 1. 8.

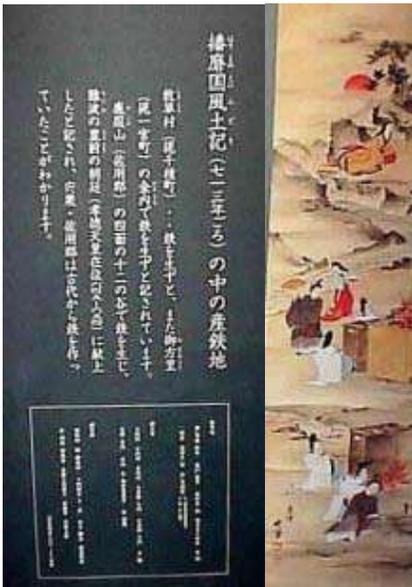
### C. 「たたら 学習館」



たたら学習館とその内部



たたら唄



播磨風土記の記述



初花の献額

### D. 天児屋たたら遺跡

天児屋鉄山跡の一角 遺跡跡のそばを流れる川淵に在り、たたら製鉄の歴史や工程を模型や図表等で詳しく紹介展示。また千種町で生産された玉鋼を使って製作された日本刀なども展示されている。すぐ横の道路を挟んだ右の山肌を階段状に切り開いた斜面状に石垣を積み、たたら場やかな流し場ほか主要な天児屋鉄山の跡が整地され広がっている。

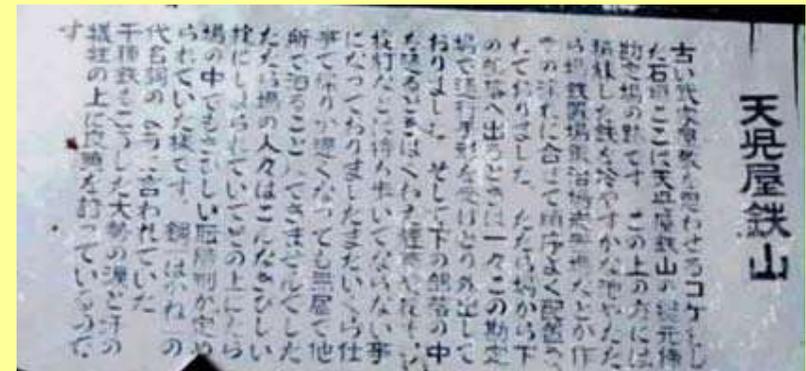


1999. 5. 15. 天児屋鉄山 勘定場跡



1990. 5. 26. 天児屋鉄山 勘定場跡

#### 天児屋鉄山の総元締 勘定場跡に立つ看板 1990. 5. 26.



古い武家屋敷を思わせるコケむした石垣。ここは天児屋鉄山の総元締勘定場の跡です。この上の方には精練した鉄をひやす「かな池」や「たたら場」「鉄置場」「鍛冶場」「炭置場」などが作業の流れに合わせて順序よく配置されておりました。「たたら場」から下の部落に出る時はいちいちこの勘定場で通行手形を受取り外出しておりました。そして下の部落を通る時はくわえ煙草や???提灯などを持ち歩いてならない事になっておりました。いくら仕事で帰りが遅くなくても無届で他所で泊まる事は出来ませんでした。たたら場の人々はこんな厳しい掟にしばられていてその上たたら場の中でも厳しい職階制が定められた様です。鋼の代名詞のように言われていた千種鉄もこうした大勢の涙と汗の犠牲の上に良質を誇っていました。



整備されて「たたら公園」となった天児屋鉄山遺跡 1999. 5. 15.



鉄穴流し跡 と 鉄山たたら場跡

BY M. NAKANISHI 2001. 1. 7.

「たたら」製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地

### 3. 岩野辺〔岩鍋〕 1999. 5. 15.

iwambe.htm by M. Nakanishi



千種 岩野辺



金屋子神社 祭文の写

#### 金屋子神 千種岩鍋 降臨の伝承

播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。民驚きて「如何なる神ぞ」と問いまつる。時に、神託げて曰く、「われは是れ、作金者金屋子の神なり。…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として、白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。出雲の国の野義の郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて・・・

島根県 広瀬町 「金屋子神社」祭文より

北の岡山・兵庫の県境から流れ出た千種川が山々が迫る細い谷合を南に流れ下る。源流地域から幾筋かの川が集まり、本流となって谷を下る丁度その出口少し広くなった盆地に千種の街があり、本流は瀬戸内海へ向って流れ下る。この千種川にそった一本道の両側に店が並ぶ千種の街並が広がっている。



神戸からやって来た眼には山奥のわりには明るい商店街を中心とした町並みである。

この千種の町にはいる手前の村には歌舞伎舞台が残っていて、今も農村歌舞伎が受け継がれていると言う。この山間の千種の街で千種川に沿って南の瀬戸内海へ抜ける街道と東西に中国山地の山間をぬって兵庫県・岡山県の町々を結ぶ山越の国道429号とが交わっている。山間の重要路ではあろうが、昔の賑わいはなく、静かな山間をそれぞれ一筋の街道が貫いている。往時にはこの山奥で作られた「千種鉄」が、この千種の街に集められ、これらの街道を日本各地に運ばれ、多いににぎわったものと思われる。

千種歴史民俗資料館に残されている絵図に馬の背に積み運ばれて行く鉄と千種の街道の賑わいぶり

が描かれている。千種で作られた鉄が古代から明治の近代西洋の鉄がさかんになるまで、幾世代にも渡って運ばれて行った。この街道の十字路を東へ少し入っていった次の集落が「古代製鉄の神 金屋子神 降臨の伝承地 岩鍋」である。



千種の街道の賑わい 馬の背に載せて運ばれる鉄 千種町歴史民俗資料館で

千種の街へはいる南の入口のところに街道の十字路があり、東西にのびる国道 429 号線を東へ千種の家並を抜け、山間の道を 1km ほどのぼっていく。

国道 429 号線の道路標識とともに岩野辺の地名が不意にあらわれ、岩野辺の部落の家々が途切れ、山へかかる峠の三叉路の道端に大きな『古代製鉄の神 金屋子神 降臨の地 岩鍋』の碑が建っていた。



振りかえると千種の街の向こうに「たたら」の山々が、また北も道が伸びる東にも山々がひろがっている。

時たま通る車以外にひとかけなし。静寂の中に 何の説明書きもなくこの碑がたっている。この周辺の山々には「たたら」製鉄の遺跡の印が至る所にいれられているが、この峠からはなにも見えない。ただ 幾重にも重なって見える周辺の鬱蒼とした森と山々が「たたら」製鉄の繁栄を築いたものと想像する。

「一度どんどころなのか 訪れたい」とおもってきたが、本当にあっけない出会いであった。こんなに千種の街近く また 街道沿いが古代鉄発祥伝承の地「岩鍋」とはおもっても見なかった。

碑があるのみで なにもごてごてした説明書きがないのもいい。周辺の山々を眺めながら、少し三叉路をくだったり、まわりの山道を歩いたりしたが 今は本当に静かな山里である。

千種 岩鍋にて  
by M. Nakanishi 1999. 5. 15.



## 金屋子神 降臨の伝承の地 千種岩鍋



製鉄の神 金屋子神の総社

## 1.2. 金屋子神社 と 金屋子神話

島根県 広瀬町

hrse.htm by M. Nakanishi



広瀬町ホームページより

## 1. 金屋子神社 Country Walk



[広瀬町 金屋子神社 1999. 3. 12.]

1999年3月。米子の娘宅からは川沿いに中国山地へわけ行って車で1時間たらず城下町広瀬の街から更に山間に入ったところに「金屋子神社があった。広瀬町の最奥部の重量たる中国山地の小盆地、西比田に鎮座し、広瀬町の中心からおおよそ25kmの南方にある。

古来タタラ神である金屋子神の社として、鉄山師達の厚い信仰を得、今も鉄関係者の参詣の多いことが、奉納された数々の品々やその本殿の立派さ 良く整備掃き清められた境内の様子からうかがえる。

「たたら」遺跡を訪れると必ず「金屋子さん」が祭られているのを見て、総社である広瀬町 金屋子神社は是非行きたいと思っていたところである。

金屋子神信仰の詳細は金屋子神神話として別に記載したが、「鉄山秘書」[1784]には金屋神と「たたら製鉄」との関係伝承を次のように載せている。

「太古ある旱天の日、土民が雨乞いをしていたところ、播州宍粟郡岩鍋に高天原から一神が降臨し、金属器の製作法を教えた。

神はさらに西方に飛び、出雲国能義郡比田の黒田に至り、休んでいると、たまたま狩りに出ている安部氏の祖正重なるものがこれを発見。やがて神託により、朝日長者なるものが宮を建立し、神主に正重を任じ、神は自ら村下となり、朝日長者は炭と粉鉄とを集めて吹くと、神通力によって鉄が限りなくわきてた」と。

鉄山秘書より

神社の大鳥居をくぐるとすぐ右手には、金屋子神信仰の中心にある金屋子神社の縁起や「たたら」にまつわる色々な事を映像や展示で示した立派な金屋子神話民俗館がある。

また 掃き清められた参道の正面奥に門越しに立派な本殿が見え、参道の片側道に沿って大きな「けら」が数個並べて置かれており、その奥に「金屋子神」が舞い降りたとされる「桂」の古木があった。

森につつまれた静けさの中に、掃き清められた境内に立派な本殿がある。

さすが製鉄の神 本殿には奉献された品々に各製鉄会社の名がずらっと並び、立派な本殿とともに、現在にいたるまでここが鉄の守り神であることを示している。



[金屋子神社 参道脇に並べられた「けら」 1999. 3. 12.]

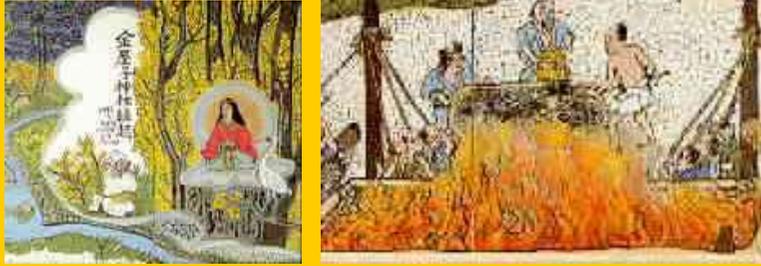
## 2. 金屋子神話民俗館と金屋子神話



金屋子神社の大鳥居をくぐり参道の直ぐ左手の森に囲まれた丘の上に立派な金屋子神話民俗館があるり、有名な金屋子神神話がわかりやすく展示されている。

## 金屋子神話

### 金屋子神社に伝えられる製鉄と鍛冶の神々の神話



大昔のある年の夏のことで。播磨の国岩鍋（今の兵庫県と岡山県との境）という山の谷あいにある村あたりといったは、何日も雨がふらず、太陽が毎日ぎらぎらと大地をこがす日が続きました。村人たちは、このままでは川の水も干あがってしまい、田畑の作物もすべて枯れてしまうと、山に集まって雨が降よう天の神に祈ることにしました。

村人たちは、奥深い谷川の岩かげのふちで、まわりを清めて火をたき、村おさが岩に向かって手を合わせ、呪文を唱えて一生懸命神に祈ると、不思議にも空にはにわかには雲がわきおこり、大つぶの雨がふってきまかした。「雨だ、雨だ」、「これで畑の作物も枯れずにすむ」、村びとたちは雨にぬれながら、鉦や太鼓をたたいてよこびの踊りをおどり始めました。

たかぶる雨乞いの祭りのなかで村おさは、自分のこころにひらめいた神に、「私たちの願いを、このようにならせてくださったあなたは、いったいどなたさまなのか教えてください」と、感謝の気持ちをこめて聞きました。神は、「わたしは、金山彦天目一個神ともいう金屋子の神です。生き物に生命をよみがえらせたり、田畑の作物を豊かにみのにらせるためには、水は最も大切なものの一つです。私は、この

地ではさまざまな人びとの幸せをまもるために雨を降らせましたが、これからは遠く西の方へいき、そこで鉄を吹き、道具をつくることを多くの人に教えなければなりません」といって、白鷺ののって天空高くに飛び立ちました。金屋子神は、出雲の国の上空までやってきました。そして空から鉄づくりに最も通じた地をさがしました。昔から『たたら』と言いつたてられてきた鉄づくりに、山や川でとれる砂鉄と、鉄をとかすのに必要な大量の木炭と、炉をつくるのにふさわしい



粘土がなくてはなりません。金屋子神は、その三つの条件をかねそなえた地として能義郡西比田を選びました。そして、西比田黒田の森の桂の木に降り立ちました。



金屋子神を最初に見つけたのは、山に犬を何匹もつれて獵に來ていた、安部正重という人でした。

犬たちは、白鷺のからだから放たれる神の光明（ひかり）をみて、身をちじめて吠えています。正重は、犬たちをなだめて神におそるおそる問いかげました。「あなたはこの地に何をしに來られたのですか」と。すると神は正重に、「われは金屋子の神なり。このところに住いして、『たたら』を仕立て、鉄（かね）を吹くわざを始めし」と告げ、自らも神としてその仕事があまくいよう協力することを約束しました。



神からのお告げをつつしんで受けた正重は、近くに住む長田兵部朝日長者にこのことを伝え、ふたりはまず神がおりた桂の木のわきに金屋子神のお宮を建てることから仕事をはじめました。そして、正重はその宮の神主に、また長田兵部朝日長者は、これからつくる『たたら』の村下（技師長）をつとめることになりました。『たたら』の高殿（施設）の建設には、金屋子神をとりまくお告げの神々が天から地上に來てかかわったと伝えられています。

建設現場に最初にあらわれたのは、なんとおどろくことに75人の子供の神々です。子供の神々は、まず75種類の仕事に必要な道具を

つくりました。始めは自分たちが村下となって土地を整備したり、杉の木を伐って『ふいご』をつつたりして、建設の総指揮にあたりました。

一方、朝日長者は山に入り砂鉄と炭を集めています。高殿では炉がつくられ、そのまわりには、建物の中心となるたいせつな6本の大きな柱が建てられ、その柱を金屋子神をはじめ、木の神、日の神、月の神が、東西南北の方向を分担して守っています。このほか屋根を火災から守る神、炉に風を送る風の神、風を送る『ふいご』などさまざまな道具をつかさどる神々、また、『たたら』には、数ぞえきれないほどお告げの神々が参加し、協力しています。

金屋子神は、奥出雲一帯に次々とたくさんの『たたら』の施設をつくりました。

金屋子神がかかわると、どこの『たたら』でも質のすぐれた鉄が限りなく産みだされました。金屋子神がかかわると、どこの『たたら』でも質のすぐれた鉄が限りなく産みだされるので、金屋子神に対する信仰が、『たたら師』とよぶ、たたらで働く人たちのあいだにひろまっていきました。

たたら師たちからは、「金屋子さんは、生産を高める女の神さまだ」と信じる人も出てきました。また、人によっては「いや、金屋子さんは男の神さまだ。いつも炉の中の強い火の光りばかり見ているので、片目をとられてしまった。一つ目の神さまだ」という人もあらわれました。

ある年の冬、金屋子神は村下をつれて『たたら』に向かう途中、高殿の前でとつぜんとびだしてきた犬に吠えられ、ふたりはなんとか逃げようとしたのですが、びっくりした村下は、地面に落ちていた麻緒に、足の小指をとられここで転んで死んでしまいました。金屋子神は、集まってきた『たたら師』たちに、「村下の死骸は葬ってはいけません。そのまま高殿の元山柱にくくりつけて鉄を吹くのです」と、教えました。「たたら師」は、神のいわれるままにして仕事を続けると、いままで以上により鉄を大量につくることができたということです。

金屋子神は、このように「死のけがれ」を好む不思議な性格の一面をもった神でもありました。

広瀬町 金屋子神話民俗館 資料より

2000.1.8. 作成 by M. Nakanishi

姫路市 兵庫県立歴史博物館 ビデオライブラリー

### 1.3. 「千種鉄 と たたら製鉄」

hmzi1.htm by M. Nakanishi 2001.1.21.



千種町 千種川と砂鉄    千種 天児屋鉄山遺跡    金屋子神と岩野辺のたたら

日曜日 神戸に帰ったついでに、気になっていた歴史博物館のビデオライブラリーの「千種鉄」のフィルムを見にかけた。前に一度見た事があるのですが、もう一度「千種 たたら」の歴史について頭の整理のつもりででかけました

姫路城の北側 きれいに整備された公園の中に博物館がある。中に入ると思いもかけず、兵庫歴博ゼミの講演会村上泰樹氏「発掘から見た兵庫の歴史 兵庫の鉄」が開かれており、飛び込みで参加。

古代鉄と渡来人の関係や「日本での鉄の生産がいつはじまったのか？」など 自分のイメージ高めようと思っている時だったので、本当に良い機会となりました。

また 今 千種町と隣接する山崎町の山奥で「古代たたら遺跡」の発掘がはじまっていると聞きました。是非たずねようと思っています。ビデオライブラリ「千種 たたら」のフィルムから 千種「天児屋鉄山」の概観図や千種歴史博物館の絵図の写真が「金屋子神」を描いた物である事そして岩野辺の古いたたら遺跡の写真等を見ることできました。また千種のたたらに関係した千種の町の人たちに連綿と続く苗も。ビデオからとった写真を少しスライド風にまとめました。また、最初に千種町歴史民俗資料館を訪れた時に「千種鉄」関係の資料を整理まとめられた本を戴きましたが、今読み返してみても多くの資料が整理されています。先のまとめに記すのを忘れしたので参考に書名のみ記します。

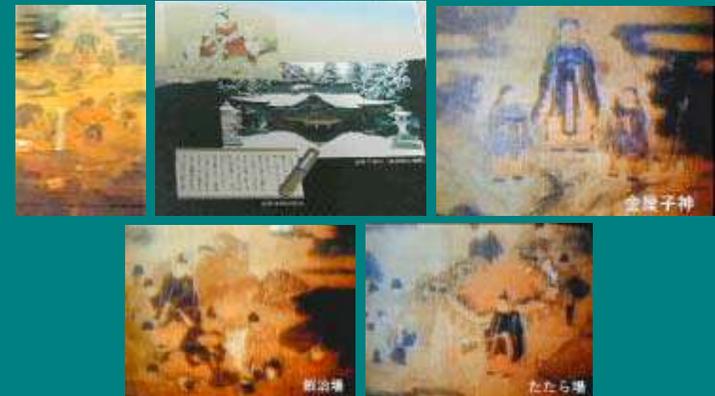
●千種町教育委員会「たたらと村と百姓たち -千種鉄関係資料集-」 昭和58年11月15日発行

2001.1.21. 神戸にて M. Nakanishi

## 千種鉄 と たたら製鉄

兵庫県立歴史博物館 ビデオ ライブラリーから

### 1. 金屋子神話 と「たたら」製鉄図



### 2. 金屋子神 降臨伝承の地「千種 岩野辺」の製鉄遺跡



### 3. 「たたら」製鉄に関する苗字例



### 4. 千種川の流れと砂鉄



### 5. 千種 天児屋鉄山遺跡



2001. 1. 27. M. Nakanishi

### 1. 4. 「発掘が語る兵庫の歴史『兵庫の鉄』」

村上泰樹氏 講演

—中国伝来の弥生 鑄造鉄斧には既に熱処理による表面加工がおこなわれていた—  
hmzi2.htm by M. Nakanishi 2001. 1. 21.

日曜日 神戸に帰ったついでに、気になっていた歴史博物館のホームライブラリの「千種鉄」のフィルムを見にかけた。

博物館では思いもかけず、兵博ゼミの講演会村上泰樹氏「兵庫の鉄」が開かれており、飛び込みで参加。丁度古代鉄と渡来人の関係や「日本で鉄の生産がいつはじまったのか？」など 自分のイメージ高めようと思っている時でしたので、本当に良い機会となりました。

また 現実に今 発掘がはじまっている山崎町の「古代たたら遺跡」の紹介は非たずねようと思っています。

ライブラリ「千種 たたら」のフィルムから千種「天児屋鉄山」の概観図や千種歴史博物館の絵図の写真が「金屋子神」を描いた物である事そして岩野辺の古いたたら遺跡の写真等を見ることができました。また 千種のたたらに関した苗字も

兵庫の地が発掘された弥生時代の鉄器・石器道具の分析から倭・大和とほぼ同じ先進の地であったという川村氏の考察 道具の見方 道具が語る考古学おもしろかったです。

また 紀元前 今から約 2000 年前 中国から伝来した鑄造鉄斧には、現在にも通ずる熱処理の原点とも言える脱炭の熱処理が行なわれていた事教えてもらいました。

鉄の技術の奥深さというか古代から脈々と流れる鉄の技術に触れることができました。

寒い冬 家にじっとしていようかとも思いましたが、やっぱり 出かけるとそれだけの価値有り。



福岡県比恵弥生遺跡から出土した中国製鑄造鉄斧 断面  
弥生時代 中期 今から約 2000 年前

村上泰樹氏は「兵庫の鉄」講演の中で 村上恭通氏著「倭人と鉄の考古学」をベースに中国・朝鮮半島と「倭・日本」の交流・鉄伝来の歴史を解り易くレビューし、それらと兵庫で発掘された縄文遺跡・弥生遺跡からの出土鉄との関係話をされた。

その中で道具 石器から鉄への変化 また、鉄の日本伝来が巻き起こす古代史の謎解明の手がかりとし

て、紀元前 今から約 2000 年前福岡の弥生遺跡から発見された中国大陸伝来の鑄物製鉄斧にスポットをあて、鉄伝来の歴史を語られたが、実におもしろかった。その中で出土した中国製の鑄造鉄斧の表面には 表面部をネバクするため均一の深さで脱炭層を付与する熱処理が施されている事知りました。(例えば 福岡県比恵遺跡鉄斧など) 村上恭通氏著「倭人と鉄の考古学」の表紙を飾る中国製鑄造鉄斧の断面写真は実にあざやかで、古代から現在へ通じる熱処理技術のまさに原点であると私も思います。鉄器は韻鉄の加工がスタートといわれているが、紀元前中国では精練が既に行なわれ、その鉄を用途にあうように均一に熱処理する技術が既にあったこと驚きです。

また、低温加熱して鍛錬することで不純物や炭素を飛ばし、強靱化する技術(錬鉄)も既に紀元前にあったという。

いずれも現在に通じる鉄の技であり、7世紀 古代丹後の「高チタン砂鉄によるたたら」の考え方が現在の溶接材料に通じる技であること見つけてびっくりしましたが、それよりもずっと以前に鉄の熱処理の技がほぼ完成された形で日本に入ってきていた事全く知らずびっくりしました。

もっとも 日本では当時まだ作れず、日本で作れるようになるのはずっとあと6~7世紀。おそらく 朝鮮半島と交流のあった北九州・吉備などに鉄製品や技法が最初に伝えられたと思われるが、倭・大和が次第にこの鉄のルート・製品の流れを支配することにより、圧倒的な強さを持ち 群雄割拠していた日本各地の豪族を配下においていったに違いない。そして その間 多くの渡来人を配下に鉄の精練・熱処理技術も学び取り、さらに巨大になっていったと考えられる。

今 日本で具体的な精練が行なわれたことがはっきりしているのは 6~7世紀頃であり、それ以前の鉄の伝来・製造技術については良く判っておらず、日本誕生に間違いなく大きな役割を果たしたに違いない日本での鉄器の製造と日本誕生のロマンと重ね多くの古代史ファンや学者を魅了している。

千種川水系の兵庫県山崎町の一歩北の端千種町と接するところ 丁度 古代製鉄発祥の伝承地である岩野辺から山を会して南側にあたる山奥小茅野後山で今古代のたたら遺跡の発掘が進んでいるとの事。今のところ平安時代には遡れるらしいが、調査が進めば、もっと古代へさかのぼれる可能性があるという。「古代製鉄発祥の地」の伝承のある「千種」近隣地で本当に「古代へ遡れる遺跡が出て来ないか」と期待。

是非暖かくなれば walk しようと思っている。

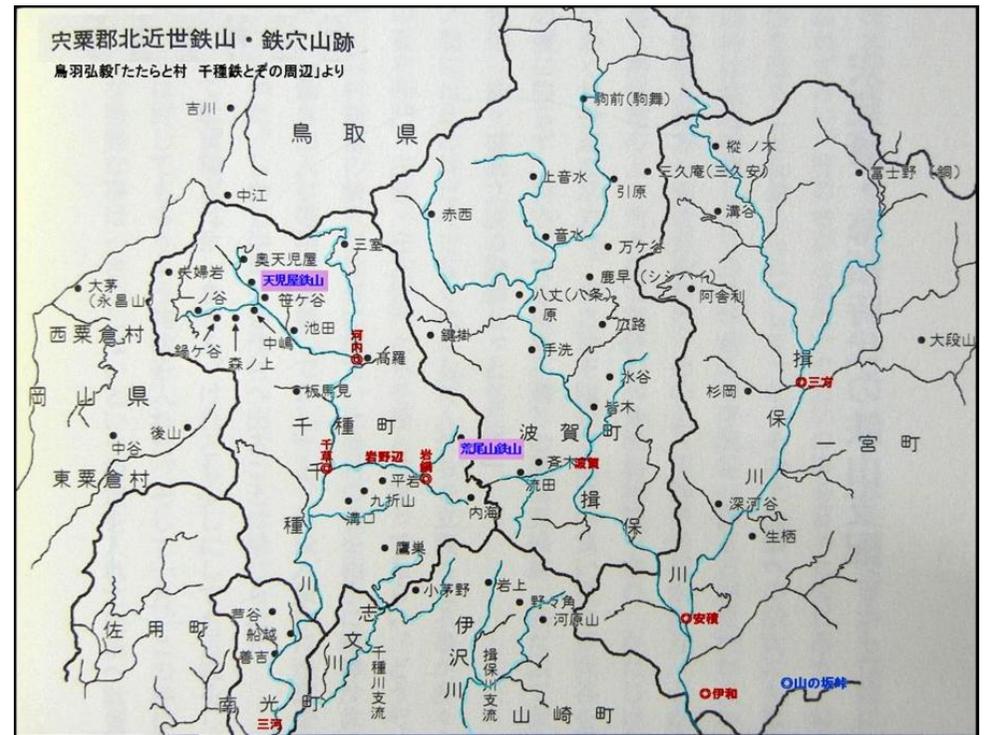
2001.1.21. 姫路 兵庫県歴史民俗博物館で By M.Nakanishi

~~~~~

播磨国 千種 鉄

1. 「たたら」製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地 和鉄のふる里『千種・岩野辺』

【完】



播磨北部(佐用郡・宍粟郡)の製鉄遺跡

2. 播磨国風土記古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk

兵庫県西播磨 佐用郡 大撫山製鉄遺跡群を訪ねて 2003.11.14.



佐用坂より 大撫山 山崎断層に沿って広がる佐用町 大撫山頂より

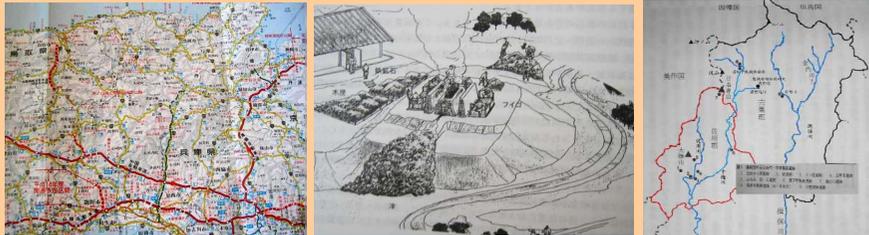
2003.12.31. sayou00.htm by M. Nakanishi

播磨国風土記(713年(和銅6年)頃)讃容の里(佐用)の項 産鉄の記事  
「(鹿庭山)々四面有十二谷 皆生鉄也 難波豊前於朝廷始進也」

『 山(鹿庭山)の四面に十二の谷があるみな鉄を産する。』

難波の豊前の朝廷に始めて献上した』

【 内 容 】



1. 播磨国風土記に見る西播磨の産鉄記事と和鉄の道
2. 讃容の里 鹿庭山(大撫山)製鉄遺跡群を訪ねて
3. 「讃容の里」Walk まとめ

7世紀初頭にまとめられた「播磨国 風土記」の中の「讃容の里」の項に産鉄の記録がある。  
現在の兵庫県佐用郡 兵庫県の西の端 岡山県との境 中国山地の真っ只中 中央を南北に千種川が流れる山郷。  
また 中国山地の山々を東西にずらせた巨大な山崎断層が貫き、その断層に沿って中国縦貫道が通る。  
中国山地を切裂き東西に走る山崎断層と山間を縫って千種川に流れ込む佐用川との十字路が「讃容の里」今の佐用町である。

千種川の北には「製鉄神 金屋子神の降臨の地」の伝承のある岩鍋。そして、後世「千種鉄」の一大製鉄地帯「千種」南には刀鍛冶の里「長船」。  
また、大陸・西日本の日本海諸国から畿内へと続く「和鉄の道 Iron Road」の中間点 それを示す播磨国風土記の産鉄の記事。古代の大製鉄地帯吉備・美作・伯耆・出雲・丹後の諸国と畿内を結ぶ十字路にあって この地は中国山地の奥深い山里ながら、四方の山々から鉄を産する栄えた古代の一大製鉄地帯であつたという。でも、今この地域の一角には巨大な放射光施設が座る先端科学技術の発信地  
昔四面12の谷から鉄を産した大撫山(鹿庭山)の頂上には、日本最大のレンズを有する反射望遠鏡が座る県立播磨天文台が四方の天空をみすえる。  
今「讃容の里」は星空が素晴らしい山郷 「星空の街」



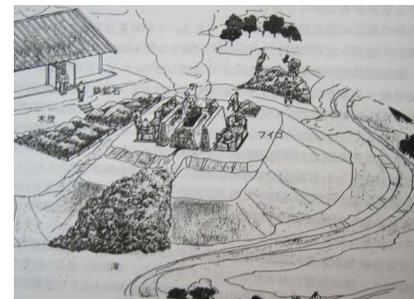
南光町下三河千種川 と「讃容の里」佐用の町を見下ろしてそびえる大撫山の谷筋と県花「野路菊」

「千種」は知っていたもののあまり頭になかった佐用。千種川に沿った産鉄記録を調べようと訪れた姫路の県立歴史博物館で見つけた播磨風土記の記事。「風土記の考古学【2】播磨国風土記の巻」の「播磨の鉄」(執筆 土佐雅彦)の中に 播磨風土記 産鉄の山が周囲に古代の製鉄遺跡群を持つ現実の山として記録されていました。訪れたかった山郷『佐用』と『4面12の谷から鉄を産した山』がその中央にどっかりと座っている』全く宛てはありませんでしたが、五万分の一の地図を頼りに 11月半ば 晩秋の『讃容の里』を訪ねました。

1. 播磨国風土記に見る西播磨の産鉄記事と和鉄の道



大撫山の南麓 佐用川山崎断層に沿って広がる佐用町 大撫山山頂より播磨の古代精鉄遺跡群



「日本で何時頃から製鉄がはじまったのか?  
古代大陸から何時? どのルートで製鉄技術が伝来したのか?」

日本誕生にも大きな影響を与えたこの製鉄技術の始まりは 最古の製鉄遺跡が6世紀の半ばまでさかのぼれ、北九州 出雲・丹後 吉備 畿内・近江などが候補地として考えられているが、まだ良く判っていない。  
兵庫県の西の端 中国山地から西播磨を南に流れ下る千種川上流の山間の地である千種・岩鍋は製鉄の神「金屋子神」降臨伝

承の地。千種川に惹かれてもう何年にもなる。

11月6日 千種川流域をもう一度調べたいと訪れた姫路の兵庫県立歴史博物館で

「風土記の考古学【2】播磨国風土記の巻」の「播磨の鉄」の項(執筆 土佐雅彦)

に西播磨の産鉄地域の歴史やたたら製鉄遺跡調査がレビューされ、忘れかけていた播磨国風土記の産鉄記事に再度接しました。

奈良時代の初頭和銅6年(713年)撰進の命で作られた各国の「風土記」は和鉄誕生を考える貴重な資料。現存する播磨・常陸・出雲の風土記の中に「産鉄」の記事があり、播磨国 風土記には吉備・美作・伯耆に接した播磨の西の端の山間地帯での産鉄の記事がある。

中国山地から南へ播磨を流れ下る「千種川」と「揖保川」流域の山間部である。

今まであまり気にとめていなかった千種川に流れ込む佐用川流域の山間部に大きな製鉄遺跡群がある。

その中心が佐用町古代の「讃容の里」

### 播磨風土記にみる播磨の産鉄記事

【播磨国風土記 讃容の郡(佐用郡)の項】

#### ◆ 讃容の里

讃容というわけは、大神妹背二柱の神がさきをあらそって国を占められた時、妹玉津日女命が鹿を生け捕って寝ころがし、その腹を割いてその血にひたして稲をまかれた。

すると一夜のあいだに苗が生えたので、直ちにそれを取って植えさせた。

ここに大神は勅して「あなたは五月夜に植えなされたのか」と仰せられ、すぐさま他の処に去ってしまわれた。

だから五月夜の郡とよぶ。神を費用都比売命と名づける。

現在も讃容町田がある。すなわち鹿を斬りさいた山を鹿庭山とよぶ。

山の四面に十二の谷がある。みな鉄を産する。難波の豊前の朝廷に始めて献上した。

その鉄を発見した人は別部犬で、その孫らがこれを献上し始めたのである。

【播磨国風土記 宍粟の郡(宍粟郡)の項 (抜粋)】

#### ◆ 柏野の里 敷草の村(千草)

草を敷いて神の御座所とした。だから敷草という。

この村に山がある。その南方十里ばかりのところに沢がある。広さは二町ばかりある。

この沢に菅が生え、笠を作るのに最適である。ヒノキ・スギ・栗・オウレン・黒葛などが生える。

鉄を産する。狼・熊が住む。

#### ◆ 御方の里(一ノ宮町) (抜粋)

大内川・小内川・金内川 大きい方の川を大内といい、小さいのを小内と称し、鉄を産するのを金内と称する。

その山にはヒノキ・スギ・黒葛などが生える。大神・熊が住む。

平凡社 東洋文庫 『風土記』 吉野裕訳より

「(鹿庭山)々四面有十二谷 皆生鉄也 難波豊前於朝廷始進也」

「 山(鹿庭山)の四面に十二の谷がある。みな鉄を産する。  
難波の豊前の朝廷に始めて献上した 」

「山全体が鉄の山・・・????????」 これは 凄い

歴史博物館で見た「播磨の鉄」では播磨風土記に記載された「鹿庭山」が佐用町の中心にそびえる「大撫子山」。この山の周りに沿って流れる佐用川・千種川流域に幾つかの古代の製鉄遺跡群があり、この流域一体が古代の一大製鉄地帯である事が調査レビューとともに記載されていました。

早速 国土地理院の地図に場所の書き込みチェック。

山また山の中 果たして今も製鉄遺が残っているだろうか・・・

地図で見ると大撫山には県立西播磨天文台とドライブウェイが伸び、「四面十二の谷」との記述どおり、高くはないが、周辺はみんな山。山だけ見ることになるかもしれないが、それもよし。どんな山か興味深々。うまく行けば 古代の製鉄遺跡にも行けるかもしれない。

地図をにらみながら、何度となく訪れた「千種・岩鍋」のイメージをこの西播磨「讃容の里」に重ねながら、イメージを膨らませました。



播磨の古代製鉄遺跡群



古代風土記の産鉄記事「讃容の里」と製鉄遺跡群



兵庫県播磨地方の概略



佐用坂より 大撫山



山崎断層に沿って広がる佐用町 大撫山山頂より

西播磨では中国山地が海岸地まで延び、山深い郷を形成している。

古代 畿内の周縁部にあたり、製鉄技術伝来の候補地のひとつ吉備地方(美作・備前・備中・備後)と密接な交流を有していた。

北から南へ流れ下る千種川上流域の宍粟郡千種・岩鍋は「古代製鉄の神 金屋子神 降臨の地」の伝承地。

また、千種川が流れ下る河口近くには備前長船の刀鍛冶の郷がある。

千草の北 但馬 氷ノ山の麓の街道筋にも何度か見かけたたたら遺跡の標識。

西播磨は古代からの産鉄の郷。

この千種川水系の佐用川と千種川が中国山地をながれくんだり、巨大な東西に走る山崎断層にぶつかるところが佐用町。

正確には中国山地から流れ下ってきた千種川と佐用川は断層にぶつかり、断層に沿って東西に方向を捻じ曲げられ、断層を抜けた南で合流してまた南へ流れ下る。

千種川と佐用川が合流する手前の佐用川沿いの街が古代に編纂された播磨国風土記に産鉄の記事がある「讃容の里」佐用町である。

この「讃容の里」の北側に連なる壁としてそびえる山の中央に4面12の谷すべてから鉄を産する山 旧名「鹿庭山」と称する「大撫山」がある。

北の中国山地より深い山間をぬって南北に流れ下る二つの大河「千種川と揖保川」の流域に形成された西播磨。この山間の地は古代西から東へまた北の日本海沿岸から南へと大陸と日本を結び幾多の産鉄の民が往来し、日本に製鉄技術をもたらした和鉄の道があったに違いない。

でも神戸から出かけると通いなれた千種よりもさらに山深い郷というのが私のイメージ。

長い間静かな山里であったこの千種川流域では、今山崎断層に沿った狭い谷間を中国自動車道が東西に貫き、千種川に沿って智頭急行線が南北に開通。さらに鳥取から佐用を通して竜野を結ぶ横断高速道路も一部開通。佐用町の南の千種川と揖保川にはさまれた丘陵地には播磨科学公園都市が整備され、その中心に設置され

「放射光」施設が数々の新しい微量分析での成果をあげている。また、佐用町には県立西播磨天文台が設置され、日本最大の反射望遠鏡が設置されるなど山深い郷に変わらないが、新しい街へ急速に変貌しつつある。神戸に帰ったら 一番先にゆっくり 山里を歩きたい場所でした。



播磨の鉄 佐用町周辺の古代製鉄遺跡群



西下野製鉄遺跡群近傍 千種川

「山全体が鉄の山・・・????????」これは 凄い  
古代 西播磨の山里「讃容の里」には 吉備地方や出雲など日本海諸国と畿内を結ぶ「和鉄の道・Iron Road」があった。中国山地の山また山の中 果たしてこの山間の町に製鉄遺跡はのこっているだろうか・・・

大撫山にはドライブウェイが伸び、県立西播磨天文台と広い公園になって 「星空の町」のベース基地になっている。「四面十二の谷」との記述どおり、高くはないが、周辺はみんな山。そして、狭い谷あいぬって佐用川が流れている。

山だけ見ることになるかもしれないが、それもよし。

佐用川に沿って大撫山の山裾をその痕跡をイメージしながら歩いてみよう。

11.14.地図を片手に秋晴れの朝 佐用町 大撫山へ出かけました。

## 2. 讃容の里 鹿庭山(大撫山)製鉄遺跡群を訪ねて 兵庫県佐用町 203.11.14.



佐用町全景 大撫山より 2003.11.14.

### 【内容】

- 2.1. 山崎から千種川流域の佐用へ
  - 千種川沿いに広がる南光町三河製鉄遺跡群と西下野製鉄遺跡 -
- 2.2. 佐用町の中央にそびえる古代製鉄の一大生産地 大撫山
  - 今は頂上に西播磨天文台 -
- 2.3. 大撫山 南面の谷にある永谷製鉄遺跡
- 2.4. 佐用川沿いの大撫山製鉄遺跡群を訪ねて
  - 播磨風土記「讃容の里」Walk -



国道179より 大撫山



大撫山頂上近傍



大撫山より南面とその麓にある永谷製鉄遺跡

### 2.1. 山崎から千種川流域の佐用へ

-千種川沿いに広がる南光町三河製鉄遺跡群と西下野製鉄遺跡-



山崎-南光町間の峠道 2003.11.14.

11.14. 秋晴れの早朝 久しぶりに三木から加古川を横切って加西へ。

加西からは中国自動車道に沿って山裾を通過して 揖保川を渡ると山崎。

ここは、攝津・播磨から美作や因幡・出雲へのちょうど中間点にあり、四方からの道が交差し、山深い中国山地へ分け入る要衝の地。

山崎の街中を通るのは4、5年ぶりであるが、西南の丘陵地を切り開いて播磨科学公園都市が出来た事や、中国自動車道を中心とした交通整備により、周辺の山間地の開発が進んだの

だろう、以前よりも随分街が大きくなった様な気がする。

南の竜野から揖保川沿いに鳥取へ向かう因幡街道を山崎の街中で横切り、街中を通り抜け、中国縦貫道に沿って西に向かうといよいよ奥深い山中。

山崎断層が中国山地を左右に切裂き、山間の狭い回廊を東西に作り、佐用町への道がこの回廊の中につづいている。  
吉備・美作・伯耆の国に隣接して中国山地に点在する西播磨の古代からの一大製鉄地帯に入ってゆく。  
もう 佐用町まで大きな町なし。交通量も激減し、良く手入れされたスギ林が続く山中を南光町へ向かう。  
切窓峠を越えると揖保川の流域から、いよいよ千種川の流域に入る。相変わらず、狭い谷あいの道が続く。  
山崎から約 30 分ほどで山間の小さな集落下三河の三叉路に出る。前方に立ちほだかっている山裾を千種川が流れ、川に沿って北へ行くと千種 南へ行くと佐用である。



山崎-南光町間の峠道 2003. 11. 14.

下三河の三叉路を南に折れて千種川に沿って佐用に向かう。

千種川が直角に西にまがり、正面にトンネルから抜け出した赤い高架橋が見えると西下野の集落。

この千種川に沿って両岸に約 30 を超える古代の製鉄遺跡があり、南光町三河製鉄遺跡群と呼ばれている。



西下野 中国縦貫道と千種川 対岸の山裾の谷に西下野製鉄遺跡がある 2003. 11. 14.

やつと道路沿いの民家のおじいさんを見つける。 製鉄遺跡のことを聞くと、すぐ前の田圃も川向こうの山裾もみな製鉄遺跡跡だという。

地図を見せながら西下野製鉄遺跡の位置を聞く。

脇道の橋を渡って中国縦貫道くぐり 細い道を藪の中を山肌に沿って少し登ったところ。

教えてもらったとおり、中国縦貫道のトンネルを抜け、山裾を少し登ったところに広場があり、階段状に谷あい

が何段か聖地された林になっている。

その奥に炭焼きか何かの建物が建っている。位置的にはここが西下野製鉄遺跡の位置なのだが、どうもはっきりしない。



千種川南岸 西下野製鉄遺跡 ??? 2003. 11. 14.

この千種川に沿った山間にはいくつもの古代製鉄遺跡があり、古代ばかりでなく、中世・近世まで 種々のたたら遺跡があったというが、今は静かな谷あいの集落の中に埋もれている。

西下野製鉄遺跡では 5 つの炉床と共に工房跡や炭窯砂鉄置き場などが見つかり、比較的低チタンの砂鉄を原料とした奈良時代初頭の製鉄遺跡と見られている。



三河製鉄遺跡群の点在する千種川 西下野近傍

この三河製鉄遺跡群で使われた低チタン砂鉄原料は千種川の川砂鉄などとみられ、「同時代の製鉄遺跡でありながら、隣接した佐用町の大撫山製鉄遺跡群が高チタンの製鉄原料であるのと対照的である」との調査結果に興味をつらせている。

高チタン原料は精錬過程で形成したスラグがねばく、安定した鉄製造が難しく、低チタン原料に取って代わられてゆく。

後世 奥出雲でのたたら製鉄が盛んになったのも、この低チタン原料が豊富にあり、大量生産が安定して出来たからだと言われている。



山崎から佐用へ 西下野製鉄遺跡近傍



千種川 南光町 下三河付近

この西下野には次ぎのような「たたら製鉄」に関係した昔の盆踊り唄が伝わっているという。

嫁にゆくなら 下野にござれ  
下野山かけ 朝寝床 (省略)  
金もあるある 金谷の段に  
ほしくば やるぞ 掘って取れ (省略)  
金の鳥鳴く その声聞けば  
やがて長者に なるそうな (省略)

— 「兵庫史を歩く」より —

人っ子一人いない静かな集落。

もう こんな盆踊り唄も消えてしまったのか……  
両側から山が迫る狭い谷あいを川に沿って歩く。

まっすぐに見通せる狭い谷筋に清流の千種川が流れ、  
緑の山肌をワインレッドの高架橋が走る。

ゆっくり風来坊するにはもってこいの場所である。

対岸中国縦貫道のむこうの山裾が奈良時代初頭の西下野製鉄遺跡と思われるが、どこも全く判らない。



南光町西下野必寄 2023. 11. 14.  
千種川の対岸山裾に西下野製鉄遺跡群がある

一方 古代製鉄の黎明期 丹後のたたら製鉄（遠所製鉄遺跡）では、近くに低チタンの原料がありながら、高チタン原料が使われている。  
 丹後の特異点と思っていたが、丹後に近い西播磨でも同じような事象がみとれる。  
 まだ安定した高温が得られにくい時代には 他の不純物成分とあいまって、高チタン原料の有する比較的低温での溶融が和鉄精錬には好まれたのではないか・・・  
 私はむしろ高チタン原料を好んだ和鉄製鉄技術・産鉄の民がいたのではないと思っている。

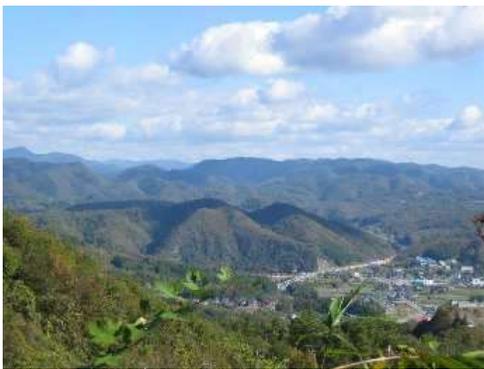
（ もっとも 後世 西播磨の和鉄製造もその中心は讃容から低チタンの千種へと移り、  
 また、低チタン原料のこの三河の地では後世まで和鉄 製造が続いてゆく。 ）

この西播磨は大陸から吉備・美作・奥出雲・丹後と畿内を結ぶ要衝の地。  
 そこに異なる製造プロセスの和鉄製造技術が時代を同じくして存在する事これこそがこの地を通る「和鉄の道」の重要性を物語っているのではないか・・・  
 高チタン原料から低チタン原料への移行がこの地で解き明かされるのではないか・・・  
 ここでどんなドラマがあったのか・・・  
 ものけ姫のイメージを思い浮かべながら 興味津々である。

## 2.2. 佐用町の中央にそびえる古代製鉄の一大生産地「大撫山」

- 今 頂上には西播磨天文台 -

千種川沿いに山間の徳久集落を抜け、南に流れ下る千種川と別れて北に佐用坂と呼ばれる峠道をのぼって佐用の町に入ってゆく。  
 幾つかの谷の出口の平地部中央に佐用川が流れ、その両側に街並と田圃があり、それを取り囲んでぐるっと山また山の狭い扇状地地形である。  
 街の北には街に接してどっしりと大撫山が構えている。  
 山また山ではあるが、山並みが低く視界が開けていて実に明るい。  
 中国山地に分け入って、兵庫県の奥の奥とと思っていましたが、その陽気な明るさにビックリ。



大撫山頂上より 佐用の町 山崎からの中国縦貫道が見える 大撫山南東側 佐用の街へ入る中国道が見える

西播磨天文台の標識に従って、北に市街を突き抜け、また現れた中国縦貫道のガードをくぐったところから、高さ 436m 大撫山へのドライブウェイがついており、山へ登ってゆく。  
 ちょうど 野路菊の季節。  
 ドライブウェイのあちこちに野路菊の群生がみられる。途中 お地藏さんが祭られたところが南面の展望台になっている。

そこからは南に広がる佐用の街並とそのむこうに果てしなく続く山並みが見え、やっぱり、奥深い山の中にいる事を実感する。  
 ここには石碑があり、お地藏様の由来と共にこの山が昔「鹿庭山」と呼ばれ、古代製鉄の一大産地であったことが記されている。



大撫山中腹 地藏堂横の展望台からの南面の展望 2003. 11. 14.

古代製鉄に関する記述はこの石碑のみにあるだけで、この山が「鉄の山」であった痕跡は見当たらない。  
 そこから 少し登ってゆくと頂上。  
 頂上は天文台を戴く良く整備された広い公園になっていて、360 度山また山 どこまでも続く山並みの展望 本当に山また山 どこを見ても 山を実感する。  
 これは同時に夜になるとそれこそ眼の位置からどこまでもどこまでも広がる真っ暗な夜空。全天星が輝く素晴らしい星のポイントと想像され、ここに天文台を誘致したこの街の人たちの眼力にもおどろく。



山腹に整備されたロッジと公園

山頂の県立西播磨天文台

360 度山また山を示す方向表示板



北西 那岐山      北 後山・日名倉山      南東 雪彦山      南西-西 岡山・津山  
 【 大撫山 山頂からの眺望      2003. 11. 14. 】

この地が古代の播磨国風土記に

「山(鹿庭山)の四面に十二の谷がある。みな鉄を産する。難波の豊前の朝廷に始めて献上した」と記述されて、日本誕生にも大いに貢献した古代の一大製鉄地帯であることなど 全く忘れ去られている。明るい天文台一色の山である。

四面十二の谷 どの谷からも鉄が出たと言う谷を見ながら、頂上にある天文台の周りを地図片手に一周。頂上付近のどこからでも 谷に降りれそうであるが、製鉄遺跡の場所など全く判らない。



古代製鉄遺跡が眠る大撫山南面の谷  
 永谷製鉄遺跡



野路菊



西播磨天文台と地元の人達



ドライブウェイ脇の赤土

公園整備をしている陽気な地元の人たちに製鉄遺跡の事を聞いて 色々教えてもらいました。

「子供の頃には尾根につけられた旧道の山道のいたところで 磁石を引っ張って砂鉄集めを良くした・・・。また、ドライブウェイの途中からまっすぐ下になる旧道を降りれば、小さな池のある堰堤に降るとそこが永谷池のはず。そこに製鉄遺跡が確かあって、今も調査しているはず。小屋がたしかある。でも もう探さんかも・・・」

大撫山南面の堰堤のある池 位置的には地図通り、永谷製鉄遺跡に違いなし。

また、ドライブウェイ脇の山肌では、真っ赤な土が帯状に連っており、やっぱりこの山は鉄の山かも。もう 和鉄の痕跡はさがせないものと思っていました、「四面 十二の谷 皆 鉄を産す」が現実味をもつ

て、永谷製鉄遺跡がある谷筋につけられた旧道を永谷池に向かって下りました。大撫山は 360 度の山の展望が楽しめる本当に明るい山。山また山の中心にそびえ、低い山でありながら全く都会の裏山臭がない。夜には天空いっぱい星空が広がる事だろう。

古代 産鉄の民がこの山を中心に世界へつながったと同様 今も天文台がこの街を世界へとつなげている。

全く 知らなかった山ですが、四面十二の谷が広がる山 360 度山また山が続く大展望や山腹に咲く県花「野路菊」が素晴らしい。そして その山の周りの狭い谷に広がる街には清流がながれ、日本の原風景 「讃谷の里」 和鉄のふるさとはいまもやっぱり輝いていました。今度は一度泊まって星空を見に・・・。

### 2.3. 大撫山 南面の谷にある永谷製鉄遺跡



大撫山からまっすぐ麓の永谷池へ下る旧道 2003. 11. 14.



中国縦貫道の際 大撫山南面の谷にある永谷製鉄遺跡 全景 後ろは大撫山



永谷 B 遺跡



池の底に遺跡が眠る永谷池



杉林の中にスラグ原が広がる永谷 C 遺跡

大撫山南面の谷にある永谷製鉄遺跡 (8 世紀半ばから 10 世紀にまたがる重複遺跡)

頂上からドライブウェイを下ったところから、まっすぐに尾根を下る道に入ってゆく。

車一台がやっと通れる程度のみちではあるが、ほとんど使われておらず、落ち葉が覆っている。

全く人気のない谷筋の山腹につけられた道をどんどん下ってゆく。

野路菊が美しい林の中の本道。振り返ると頂上の天文台が見下ろしている。

引き返しもなく、ちょっと心配になりかけた頃 前方に池が見え、谷の出口の狭い田圃にクロスして中国道が前方をふさいでいる。これが永谷池か・・・



大撫山頂上から永谷池への谷筋の道



手前の田・奥の池・左手杉林にまで遺跡がひろがっている池のすぐ下に小さな作業小屋があり、人影があるのを見てほっとする。  
 やっぱ、この池が永谷池 そして下ってきた道の反対側池の奥の林と池の下の田圃が製鉄遺跡だと教えてくれる。資料ではここにはいくつかの製鉄遺跡が重複して存在し、この池の底にも遺跡が眠っている。  
 また、すぐ下の田圃からは3基の炉跡や砂鉄が出土。池の西杉林の中はスラグ原。

永谷製鉄遺跡 2003.11.14.

この杉林の奥からも一基の炉跡が確認され、ここがもっとも古く8世紀半ばまでさかのぼれる可能性があるが、しっかりした確認は取れていないとの事。  
 この池からまっすぐ北に谷筋が伸び、大撫山の頂上が見える。



杉林の中にスラグ原が広がる永谷C製鉄遺跡



杉林の中のスラグ原 永谷C製鉄遺跡

杉林の中のスラグ原で見つけた製鉄スラグ



大撫山製鉄遺跡群 永谷製鉄遺跡で 2003.11.14.

教えてもらった左手の杉林の中に入ると数段の平地になっていて、その奥が山肌の傾斜地になって、製鉄遺跡らしい面影がある。  
 足元の雑草の中 あちこちにスラグが散らばっている。  
 何時の時代のものなのか、また発掘調査後のものなのか不明であるが、資料にあるスラグ原であろう。思いもかけなかった製鉄スラグとの出会いでした。見下ろす正面は古代讃容の里振り返って見上げる山は鹿庭山。  
 誰一人いない谷の中で、播磨風土記の世界に思っていました。

## 2.4. 佐用川沿いの大撫山製鉄遺跡群を訪ねて 播磨風土記「讃容の里」Walk



大撫山麓に沿って佐用町より西へ 上月町へ抜ける佐用川沿いの国道179 佐用町吉福付近



資料「播磨の鉄」(執筆 土佐雅彦)の調査記録によると大撫山の周辺には約55の大撫山製鉄遺跡群があり、播磨国風土記の記載どおりだとすると6世紀にまでこの地での和鉄製造はさかのぼれる事になる。  
 大撫山製鉄遺跡群をチェックした五万分の一の地図を頼りに大撫山南面側佐用川沿いを製鉄遺跡を訪ねて佐用の町から上月町へ「讃容の里」のWalk。

晩秋 大撫山をみながら清流沿いの山里風景はまさに絵画の世界から出てきたような日本の原風景そのもの。  
 街道筋を集落の人に話を聞いたり、川を覗き込んで砂鉄の存在を調べたり。また、田圃のあぜにおりたり、谷筋の藪を覗き込んだり・・・

製鉄遺跡の場所特定は出来ませんでした。その地名や谷からの出口の地形に製鉄遺跡のイメージを重ねながら、古代 播磨風土記ののどかな「讃容の里」Walk を楽しみました。

のどかな山郷の晩秋の夕暮れ時 穏やかな山並みをバックに清流が流れる田舎の夕景に見とれていました。

### ◆ 山平製鉄遺跡・鍛冶屋製鉄遺跡近傍



佐用の街をでて、大撫山の南面に沿って流れる佐用川の川を見ながら上月町へ進む。  
対岸の山裾を姫新線・智頭急行が走る。  
この山裾に山平製鉄遺跡・鍛冶屋製鉄いせきがあるが、特定できなかった。

#### ● 山平製鉄遺跡

8世紀後半の製鉄遺跡で厚いスラグ層が出土  
複数の炉が在ったようだが、未特定

#### ● 鍛冶屋遺跡

弥生時代の住居跡と重複して製鉄炉が出土  
時期は未詳

佐用町真盛より 佐用川越しに山脇・山平の集落



鍛冶屋遺跡のある山脇 鍛冶屋地区

### ◆ 金屋中土居遺跡近傍

大撫山の西面に沿って流れる幕山川が佐用川に合流する金屋橋を北に幕山川に沿って 中土居・金屋の集落が広がる。

この幕山川と大撫山の山裾が広がる田圃・さらには谷を入ったところなどに製鉄遺跡があったと集落の人に教えてもらったが、今は痕跡なし。

平安時代の製鉄遺跡と見られている金屋中土居遺跡では重層・重複した3基の炉床が出土。

金屋中土居遺跡もこの田圃の中に眠っている。



上月町大撫山西麓を流れる幕山川と  
中土居・金屋集落

金屋大撫山西の扇状地  
この中に中土居遺跡が広がる

金屋地区  
奥に大撫山頂上が見える

### ◆ 播磨・吉備・美作の境 太平記の「杉坂峠」へ



太平記の杉坂峠 播磨と美作の境 今は峠の下を中国道がトンネルで抜けている

大撫山の西面の中土居・金屋地区を北に通り返し、西に曲がって中国縦貫道にそって山間の峠道を登ってゆくと、西播磨と美作の境 杉坂峠。

太平記 後醍醐天皇・児島高德の歴史が刻まれた峠。全くひと気のない静まり返った峠である。  
今は中国縦貫道がトンネルで抜けてゆくため、全く往来がなし。 静かな峠である。

播磨の鉄の山と吉備・美作の鉄の山を結ぶ道 讃容の里も美作の里も今はほとんど和鉄の痕跡を見つけれないが、古くからこの峠道を通して日本各地へ和鉄の技術が伝播して行ったに違いない。

確証はないが、私にとっては「太平記」の史実よりも鉄の歴史の方がもっと身近に感じられます。

昔はこの峠を越えて幾多のドラマが繰り広げられたに違いない。

この杉坂峠のすぐ手前 皆田集落には絵の中から飛び出してきたような素晴らしい萱葺きの屋敷がありました。

この地の大名主であった屋敷と土地の人に聞きましたが、この地が古くからの交通の要衝であったことがこの屋敷見て一人納得。素晴らしい屋敷でした。



杉坂峠下 皆田集落 萱葺きの大屋敷

播磨・吉備・美作の境 杉坂峠近傍

### 3. 播磨国風土記「讃容の里」Walk まとめ



「(鹿庭山)々四面有十二谷 皆生鉄也 難波豊前於朝廷始進也」

山(鹿庭山)の四面に十二の谷がある。みな鉄を産する  
難波の豊前の朝廷に始めて献上した

播磨国風土記(713年(和銅6年)頃) 讃容(佐用)の項



鉄精錬技術伝播・継承の真っ只中であって、日本誕生に大きな役割を与えたであろう。まさに大陸・西国から畿内への「和鉄の道 Iron Road」の本道がこの山深い中国山地を中継地として通っていたのであろう。この地でも丹後国であったと同様にどうも高チタンの製鉄原料の産地で生産が始まり、低チタンの製鉄原料の産地へと移ってゆく技術伝播の変遷が見られるという。



産鉄の中心地「鹿庭山(大撫山)」の頂上から 360度山また山の景観と清流 佐用川の流れを眺めると、眼には見えぬこの山郷の山間でこの地を通過して行つた産鉄の民にイメージが膨らんでゆく。



そういえば 周辺の吉備・伯耆・丹後の山々では産鉄の鬼伝説があるが、ここでは消えている。早くから畿内に組み込まれ、一通過点だったのか・・・それとも技術交流・交替がスムーズに行つたのか・・・中国山地から南へ流れ下る千種・佐用川水系のこの地にはまだまだ知らないドラマがあったろう。今は本当に日本の田舎の原風景 静かな山里「讃容の里」。

古代製鉄のシンボル大撫山には日本一の反射望遠鏡のある天文台(今伊丹三菱電機で製作中と聞く)があり、全天見渡す限り星がきらめく星空の町。そして この南には現代技術の最先端 大型放射光施設が設置された播磨科学公園都市。鉄の伝来・伝播が日本を作ったように今この地から新しい発信がなされている。兵庫県西の端「佐用」。私にとっては名前だけでよく知らなかったこの山里がなんとも暖かい親しみのある明るい街に感じられ、これからも何度となく通いたいところ。

晩秋 佐用川に映える夕日に送られながら  
2003.11.14. 夕 Mutsu Nakanishi

#### 参考資料

「風土記の考古学」【2】播磨国風土記の巻「播磨の鉄」(執筆 土佐雅彦)

東洋文庫 145「風土記」吉野裕訳 平凡社

播磨国風土記 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk

1. 播磨国風土記に見る西播磨の産鉄記事と和鉄の道
2. 讃容の里 鹿庭山(大撫山)製鉄遺跡群を訪ねて
3. 「讃容の里」Walk まとめ

【完】



大陸からの文化がいち早く入った古代の大国 吉備・美作・伯耆・出雲・丹後などと畿内を結ぶ交通路の入り口にあたる西播磨。

中国山地の奥深い里ではあるが、早くから開けた土地。産鉄の民が川の山中に分け入り、この地でいち早く和鉄生産が始められた事を風土記は示している。

この西播磨で「製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地」で後世「千種鉄」として隆盛をきわめた「千種」については良く知っていましたが、同じ千種川水系にあって千種の南側に隣接する「讃容(佐用)」については知らず。播磨風土記の記事に接して出かけましたが、山また山の中に都会の喧騒からはかけはなれた独立した家並がある静かな郷でした。

古代 大陸からの和鉄精錬技術伝来の過程で大陸・西日本の大国と畿内とを結ぶ要衝の地であって和鉄生産がスタートする。



3. 安積山製鉄遺跡 (平安時代末期の製鉄遺跡) 探訪 2004. 2. 11.

1. 古代 産鉄の地 「讃容里」大撫山の夜明けと朝霧 佐用郡佐用町
2. 古代 産鉄の地 「御方里」周辺 平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて 宍粟郡一宮町  
azumiyama00.htm by M. Nakanishi 2004. 3. 1.



古代の御方里周辺 一宮町安積にあるこの地方で一番古い製鉄遺跡 安積山製鉄遺跡



讃容の里 大撫山の夜明けと朝霧

産鉄と縁の深い大国主命を祭る 播磨一宮 伊和神社

一番寒い時が過ぎ、やっと暖かくなりました。2.12. 早朝

兵庫県の西端 西播磨北部の佐用町大撫山に素晴らしい朝霧が出ると聞いて家内と二人出かけました。また、同時に大撫山など佐用の山々を挟んで東側の揖保川が流れる一宮町一帯は古代には「御方里」と呼ばれたもうひとつの産鉄地。一宮町安積にある安積山製鉄遺跡を訪ねてきました。

「讃容の里 大撫山」は「四面十二の谷皆鉄を産する」と播磨風土記に産鉄の記事があり、昨年11月に訪れた所である。

播磨国風土記 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 兵庫県佐用郡 大撫山製鉄遺跡群を訪ねて 2003. 11. 14.

<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/sayou00.htm>

山また山に囲まれた佐用町の中央にあって山また山の狭い盆地の山の間を朝霧が覆うという。

また、一宮町は町名の由来となった鉄と関係深い出雲の大国主命を祭る播磨国一の宮「伊和神社」があり、古代播磨風土記に「御方里」と呼ばれた産鉄の地はこの一宮町北部山間一帯(三方町)である。

ちょうど 次は揖保川水系の製鉄遺跡を訪れたいと計画していた事もあり、大撫山の日出にあわせ、真っ暗な早朝神戸を出て、朝靄の中に浮かぶ山々に朝日が輝く素晴らしい大撫山の光景。

一宮の街道筋の際の小高い丘にある安積山遺跡。眼下に揖保川と一宮を見下ろす城山の南面の小高い丘今は周りの山肌に沿って鉄分を含む赤茶けた水が流れ込む湿地に灌木や雑草が埋め尽くしているが、谷に沿って幾段かになった地形と山肌の赤いベンガラ色が本当に印象的な製鉄遺跡でした。

1. 古代 産鉄の地「讃容里」 大撫山の夜明けと朝霧 佐用郡佐用町
2. 古代 産鉄の地「御方里」平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて 宍粟郡一宮町

兵庫県の西端 西播磨北部の中国山地は古代からの和鉄の一大製鉄地帯である。

播磨国一宮 伊和神社に出雲の大日貴神(おこなむちのみこと別名 大国主命または大物主命 素戔鳴尊の子の孫という伝承もある)が祭られ、「出雲から播磨にやってきた大国主命がまず讃容の地にやって来て、その後 宍粟郡 御方里の地に本拠を置き、播磨国全体を治められた」と風土記に記されている。

出雲の神 大国主命伝承には産鉄族が強く結びついており、播磨北部のこの地が古くから産鉄の地が出雲と深く結びついていた事がうかがえる。

奈良時代に成立した播磨風土記には次の西播磨北部佐用郡や宍粟郡の揖保川や千種川の山間地に産鉄の記事がある。

播磨風土記に記された 西播磨北部 古代の産鉄の地

- 大撫山の山裾を千種川に注ぎ込む佐用川の山里「讃容の里」(現在の佐用郡佐用町)  
『山(鹿庭山)の四面に十二の谷がある みな鉄を産する。難波の豊前の朝廷に始めて献上した』
- 千種川のさらに上流「柏野里」の条 敷草村 (現在の宍粟郡千種町)  
『草を敷いて神の御座所とした。だから敷草という。この村に山がある。その南方十里ばかりの所に沢がある。二町ばかりである。  
(桧・杉・オウレン・黒葛などが生える。鉄を産する。狼・熊が住む)』
- 揖保川水系「御方里」の条 金内川 (御方里は今の宍粟郡一宮町 三方町)  
『御方と呼ぶわけは葦原志許平命が天日槍命と黒土の志爾高(のちの生野銀山)にお行きになりお互いに黒葛を三条足につけて投げなされた。その時葦原志許平命の黒葛は一条は但馬の気多 一条は夜夫の郡に落ち、一条(三条目)はこの村に落ちた。だから三条(ミカタ)という。あるいはこうもいっている。  
「大神が形見として御杖をこの村に立てられた。だから御形(ミカタ)という。  
大内川・小内川・金内川 大きい方を大内といい、小さいのを小内と称し、鉄を産するのを金内と称する。その山には桧・杉・黒葛などが生える。狼・熊が住む』  
(金内川は一宮町の北で西から引原川を合流する前の揖保川本流の最上流部と考えられている)



このように古代 風土記の時代から、強く産鉄と結びついた伝承の残るこれら西播磨北部の一大製鉄地帯は地質的にも出雲から美作・播磨北部 丹後の地へ中国山地を東西に高品質の砂鉄を含む花崗岩の大ベルトが分布するその真っ只中に位置している。

この中国山地中央を東西に貫く花崗岩地帯には品質の良い鉄鉱物が含まれ、それらから山砂鉄・川砂鉄・浜砂鉄が採取され、たたら製鉄原料として用いられた。

特に千種川上流の千種 揖保川上流の波賀町は磁鉄鉱系の砂鉄が取れる花崗岩鉱脈があり、千種岩野辺には製鉄神「金屋子神」降臨の地として、和鉄発祥の地伝承が残り、近世には「千種鉄」の大産地として発展する。

また、揖保川水系の谷間 一宮には町名の由来となった播磨国一宮の伊和神社があり、製鉄と関係の深い出雲 大国主命が祭神で、さらに、揖保川を遡った三方町が古代の御方で、多くのたたら遺跡がある。さらに、揖保川に合流する引原川の上流波賀町にも多くのたたら遺跡が残っている。

佐用町では品位は低いが比較的容易に溶融するチタン鉄鉱系の砂鉄を産出し、古代 播磨風土記の時代には讃容里として柏野里敷草村や御方里とともに和鉄の産地であった。

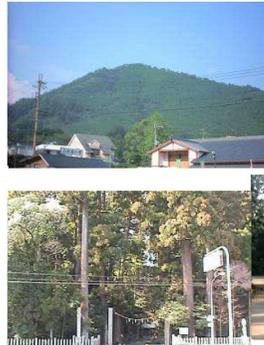
一宮町はちょうど姫路・山崎から兵庫の背骨氷ノ山の南戸倉峠を越えて鳥取へ抜ける因幡街道の中間点。

また、千種より東へ岩野辺を通って山越えて揖保川沿いに下りたところ。

幾度か「たたら」の文字を見た街道筋。千草か街道筋に沿ってすぐそばにたたら遺跡があるとは露知らず。

1.15. 姫路の県立歴史博物館「播磨北部の生業と武士」の展示で古代の御方里 一宮町の揖保川本流が引原川と分流するその分流点の山に平安末期の大きな製鉄遺跡 安積山製鉄遺跡があることを知りました。

一宮町界隈を訪れにはちょうどいい機会になりました。



播磨国一宮伊和神社  
宮山 神奈備山  
伊和神社入口 社殿

製鉄と関連の深い出雲 大国主命を祭る 播磨国一の宮 伊和神社



安積山製鉄遺跡のある一宮町 安積近傍

中央の写真 背後の山が南麓に安積山製鉄遺跡のある城山

右の写真 山裾を引原川が流れる

## 1. 古代の産鉄の地「讃容里」 大撫山の夜明けと朝霧 佐用郡佐用町



大撫山の朝霧 佐用町 2004.2.12.朝

2月11日 まだ、夜明け前 神戸から中国道を通って、佐用 IC へ。大撫山は佐用 IC のすぐそばにある。

山崎断層が東西に伸びる山々に囲まれた狭い盆地に佐用の街があり、この盆地の中に佐用川と千種川の本流が流れ込み佐用の街の南で合流する。

この川霧が秋から冬にかけての寒い朝この狭い盆地を埋め尽くし、周りの山々を霧の中に浮かび上がらせる。大撫山は佐用の街のすぐ北にあり、この佐用の盆地や周辺の山々を見下ろす絶好の位置にある。

ちょっと時期的には遅いのですが、朝霧が出ることを期待半分 周りの朝焼けの山々が見られるだけでも良いと思って出かけました。山口県的美祢盆地も朝霧が出る素晴らしい所 写真取れなかったので 写真が取れば・・・とかすかな期待。



夜明け前の中国道 佐用 正面が大撫山



日の出を迎えた佐用の街 2004. 2. 11.



大撫山の日の出 2004.2.11.

東の空がしらみはじめ、まだ日の出前の朝 7 時前に佐用の町につき、大撫山のドライブウェイを登りだす。くっきりと山が見え残念ながら霧は全くなし。

人っ子一人いない大撫山山頂。山並みが続く東の空を真っ赤に染めながら朝日が昇ってくる。

眼下の佐用の街や山々の間にうっすらと霧が立ちこめ、山の朝の素晴らしい景色が見える。雲海に埋め尽くされた山の朝を期待しましたが、朝霧に煙る山々の背後から、朝日が照らす山の静かな朝 やっぱり落ち着く素晴らしい景色である。

東の日名倉山の山腹のあたりには一条の朝霧がずっと横に糸を引き谷や小さな集落を覆い隠して、また違った朝霧の風景を見せている。



佐用町 大撫山の夜明け 朝霧 2004. 2. 11.



心地よい寒さと共に周りの山々とよく調和した素晴らしい山の朝。やっぱり来た甲斐がありました。雲海が出る頃はおそらく 多くの人で一杯なのでしょうが、今日は二人で独り占め。

神戸から高速道路で約 1.5 時間 山また山の夜明け 素晴らしい風景が楽しみ お奨めです。

2004. 2. 11. Mutsuo Nakanishi

【参考】 播磨国風土記 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk

兵庫県佐用郡 大撫山製鉄遺跡群を訪ねて 2003. 11. <http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/sayou00.htm>

## 2. 古代産鉄の地「御方里」一帯

平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて 宍粟郡一宮町



安積山製鉄遺跡のある一宮町 安積近傍

中央の写真背後の山が南麓に安積山製鉄遺跡のある城山

右写真 山裾を引原川が流れる

あすみやまいせき  
**安積山遺跡**  
(一宮町安積字丸山)

中国地方の東方に連なる宍粟郡の北部一帯では、近代にいたるまで、砂鉄を原料とする製鉄が盛んに行われてきました。古くは、奈良時代に成立した「播磨国風土記」の中に、「御方里」に「鐵を生ず土地があつたこと」が記されています。

安積山遺跡は古城山の南麓に位置し、南東約1Kの地点では播磨川本流と引原川が合流しています。この地域は、播磨地方と但馬地方および因幡地方とを結ぶ交通の要所として重要な役割を果たしてきました。

平成6年度に行われた発掘調査では、丸山の東向き斜面を削り出した3段の平坦部の上に築かれた化基の製鉄炉跡が確認されています。製鉄炉は、大型炉(6基)、小型炉(5基)、特殊な形の炉(1基)に分かれ、その構造から中国地方に多い長方形箱形炉と呼ばれる形態のものであつたと考えられます。炉の周囲では原料の砂鉄、石灰石や燃料の木炭置き場なども確認されています。

安積山遺跡の製鉄炉群は、平安時代の終わりにごろに操業されたとみられ、現在のところ宍粟郡内においては最も古い時期のものであり、なおかつ最大規模の製鉄遺跡と考えられます。

1.15. 姫路の県立歴史博物館「播磨北部の生業と武士」の展示で 一宮町の揖保川本流が引原川と分流するその分流点の山に平安末期の大きな製鉄遺跡 安積山製鉄遺跡があることを知りました。  
一宮町はちょうど姫路・山崎から兵庫の背骨水ノ山の南戸倉峠を越えて鳥取へ抜ける因幡街道の中間点。また、千種より東へ岩野辺を通して山越えて揖保川沿いに下りたところ。幾度か「たたら」の文字を見た街道筋。でも 街道筋に沿ってすぐそばにたたら遺跡があるととは露知らず。古代の御方里 一宮町界隈を訪れにはちょうどいい機会になりました。

佐用町から東へ一旦山崎町まで戻り、そこから揖保川に沿って北へ遡る。  
昔から鳥取と姫路・大阪を結ぶ因幡街道の街道筋。山崎から北は中国山地奥に分け入る山深い道である。両側を山に閉ざされた狭い平坦地を流れ下る揖保川に沿って遡ってゆく国道 29 号線因幡街道を北に向かう。この街道筋の両側に家が続き、揖保川と両側の山を眺めながら 中国山地の奥へ奥へと向う。約 20 分ほどで道の左に森、右に道の駅。播磨一宮 伊和神社である。杉の原木が街道と境内を分けている。出雲からやってきた大国主命を祭る大社である。背後の宮山は神奈火備山。出雲との交流の深さ 鉄とのかかわりを伝える神社である。



播磨国一宮伊和神社  
宮山 神奈備山  
伊和神社入口 社 殿  
森

製鉄と関連の深い出雲 大国主命を祭る 播磨国一の宮 伊和神社



安積の街にある案内板



安積橋から 城山

目的地の安積山製鉄遺跡はさらに 10 分ほど北に行った安積にある。ここは一宮町の中心で揖保川が東側からの引原川と西側から流れ下る本流とが合流する地点で、この合流点の山の南麓に安積山製鉄遺跡がある。

この城山の東側を揖保川本流に沿ってさらに遡ると古代の御方里 三方である。今も この奥には多くの製鉄遺跡が残っている。御方里へはもう少し暖かくなってからゆっくり訪ね、製鉄遺跡ばかりでなく、谷筋の溪谷や古代遺跡などを歩き、温泉にも行って、山越えて生野へ抜きたいと思っている。

また西側を引原川に沿ってさらに遡ると波賀町 ここにも多くの製鉄遺跡が残っている。そんな御方里への入り口が安積 そこに平安末期の安積山製鉄遺跡がある。このあたり一帯は古代から、時代を越えた和鉄の大製鉄地帯である。

【参考 播磨風土記に記述のある古代産鉄の地 御方里】 インターネット検索より

播磨国風土記（713～714年）御方里の条に  
『御方と呼ぶは葦原志許乎命が天日槍命と黒土の志爾嵩（のちの生野銀山）にお行きになり、お互いに黒葛を三条足につけて投げなされた。  
その時葦原志許乎命の黒葛は一条は但馬の気多 一条は夜夫の郡に落ち、一条（三条目）はこの村に落ちた。だから三条（ミカタ）という。  
あるいはこうもいっている。  
「大神が形見として御杖をこの村に立てられた。だから御形（ミカタ）という。  
大内川・小内川・金内川 大きい方を大内といい、小さいのを小内と称し、鉄を産するのを金内と称する。その山には桧・杉・黒葛などが生える。狼・熊が住む』  
とある「御方里」である。

この一宮町三方周辺で周囲の山を水源として、三つの川が揖保川に流れ込む。そのひとつ公文川の川筋「公文」には金屋、タタラ場、鍛冶屋敷、堤ヶ谷、カマス置場等、鉄に困んだ場所と、数ヶ所のタタラ址があり、また、公文の枝郷小原、溝谷は木地師の里で木地屋、鉄山、うるし採取、炭焼き等、山は栄え、賑やかで、但馬との交流も多く、次のような古歌も残っているという。

「朝日さす、夕日かがやくこの奥は、真金千杯、うるし千杯」

また、この地には、大国主命を祭る御形神社や縄文時代から中世にかけて営まれた複合遺跡 家原遺跡などがあり、この地が産鉄地として古代から開かれた地であることがわかる。

- 御形神社 祭神は葦原志許乎神で、現存する本殿は、三間社流造り、檜皮葺きで宝亀3年の創建から3度目の1527年に建立されたものです。室町時代後期の様式や技法を伝える木組や彫刻があり、彩色が施されています。昭和42年に国の重要文化財に指定。
- 家原遺跡公園 家原遺跡は、一宮北部の河岸段丘の上に営まれた縄文時代から中世にかけての大規模な住居跡複合遺跡。公園内には、その家原遺で実際に発掘された遺構をもとに各時代の建物を忠実に復元。



御形神社



家原遺跡公園



曲里・安積橋から眺める城山 2004.2.11.

伊和神社から さらに 10 分ほど北に街道を進むと程なく三角形の小高い山が正面に見えてくる。それが、安積山製鉄遺跡群が南麓にひろがる城山。大きな曲里集落に入るとすぐに、右に大屋・八鹿・朝来町への標識がある揖保川にかかる橋に出る。揖保川はこのすぐ手前に北からの引原川と合流点があり、其処から西北に変えて、古代の

御方里 三方など源流部にいたる。この安積橋を渡ると安積の集落。城山がすぐ前に迫る。ここで国道と別れ、安積の集落に入り、八幡神社の脇を通りまっすぐ城山の山へ登ってゆく。八幡神社を南から北へ回りこむと林に包まれた小高い丘にでて北に城山がそびえる南麓に出る。



安積集落から安積山製鉄遺跡に登ってゆく八幡神社脇の道

西に向って小道が続くその正面に赤茶けた山肌を露出した小高い丘があり、道の南にはなだらかな雑草の生い茂った原っぱが広がり、道端に小さな説明板が立ち、ここが安積山製鉄遺跡である。



安積山製鉄遺跡 正面が丸山 道の右手に城山がそびえる 2004. 2. 11.



丸山の東斜面に沿って広がる湿地 安積山製鉄遺跡



北側の城山 南麓側

道路のそばに立てられている「安積山製鉄遺跡」の説明板には下記のように記されている。

「平成6年度に行われた発掘調査では、丸山の東向き斜面を掘り出した3段の平坦部の上に築かれた12基の製鉄炉跡が確認された。

製鉄炉はいずれも中国地方に多い「長方形箱型炉」の形態をした大型炉6基小型炉5基特殊な形の炉1基に分けられる。炉の周囲では原料の砂鉄置き場や木炭置き場も確認された。

この製鉄遺跡群は平安時代の終り頃に操業されたと見られ、現在では宍粟郡内では最も古い時期でかつ、最大規模の製鉄遺跡である。」



製鉄炉が築かれた? 丸山東斜面



説明板に載っていた発掘調査で出土した製鉄炉

おそらく看板を立てられたすぐ横の赤い土を露出している斜面が製鉄炉が建設された丸山東向きの斜面だろう。この斜面の下は背の高い雑草や灌木が生い茂る広い平坦な湿地が広がり、南の方に傾斜しながら幾つかの小さい支谷を形成し、小さな川が流れている。

この湿地に降りると中は生い茂る草と水でぐしょぐしょ。よく見ると水溜りは赤茶け、油が浮いたようになっていて、鉄分が本当に多い湿地である事がうかがえる。



丸山東面に沿って広がる湿地 安積山製鉄遺跡



丸山東面に沿って広がる湿地



安積山製鉄遺跡の平坦部を鉄分の多い水が湿地を覆っている





安積山製鉄遺跡の北側部 城山南麓の平坦部 「釜床」の地名標識が見える



安積山製鉄遺跡の北側部 城山南麓の平坦部に残る 苔むした石垣

湿地とは反対側の北 城山の南麓にも数段に分かれた平坦部があり、ここにも色々製鉄関係の施設があったに違いないが、今はもう全くわからず。ただ、道路沿いを含めて幾つかの平坦部があり、「釜床」の地名も見える。また、時代はわかりませんが、苔むした石垣が数段残っていました。製鉄遺跡を引き継いで関係した建物があったかも知れません。

この安積山製鉄遺跡 周辺は中国山地の真っ只中であるが、明るい尾根筋。集落のすぐ裏山で、因幡街道のすぐ横で実に開放的な場所。山を分け入るという感じがしない。他の製鉄遺跡が人里はなれて山深く 谷をつめた場所を切り開いて存在するのはちょっと印象が違う。これは、この地の山々の尾根筋が赤茶けた色で判るごとく周辺一帯が本当に砂鉄豊富な場所であり、この山の両側すぐ横に川が流れ、品質の良い原料が大量に容易に手に入れられる場所である事。そしてこのことを軸に古くからの鉄の通商路が開けた街道筋であったことによると思われる。まさに大製鉄地帯の真っ只中にあることの証がこの製鉄遺跡の位置なのかもしれない。こんなに街道筋に近く 大きな製鉄遺跡があったことにビックリ。



丸山頂上部から眼下に広がる安積の町と西麓を流れる引原川



また、この遺跡は平安末期の遺跡であるが、この遺跡の東北には古代播磨風土記の産鉄地 御方里が在る。そこさらに生野・八鹿・丹後への道が延びている。東には 柏里敷草村 千種・岩野辺から吉備・美作から出雲へ また北には波賀町から産鉄地伯耆国・出雲へ。いまだ この地で古代の製鉄遺跡は見つかってはいないが、その伝承など考えると この地を含め、西播磨北部は間違いなく大陸から畿内 また中国山地に広がる産鉄国を結ぶ古代の鉄の通商路 Iron Road の交差点。鉄とともに多くの人々・文化が通っていったに違いない。

次は是非 三方 古代の御方里へ そして 丹後についてももう一度考えてみたい。豊富な高品質な磁鉄鉱系の砂鉄がありながら、他所からチタン含有量の多い砂鉄を用いた丹後遠所遺跡の製鉄技術。佐用ではチタン系 千種・揖保川周辺では磁鉄鉱系砂鉄が使われ、ここも古代の大きな時代の転換にかかわっていると思われる。そして若狭から越の国も・・・・・・・・・・。これらが 畿内 大和政権の伸長 渡来人を巻き込んだ日本の覇権をかけての争いにかかわって・・・・・・・・。



最近の新聞では「最近の加速器 C14 による年代測定の成果は目覚しく、弥生時代の倭国の卑弥呼の時代が、どうも古墳時代の幕開けの時代と重なっている。そうなると卑弥呼も今までの巫女的役割から深く鉄の覇権の中心的存在としての側面が浮かび上がってくる。奈良の古墳群の評価見直しが始まっている」との研究成果を伝えている。

奈良の鉄屋の仲間が纏向遺跡や箸墓遺跡を訪れ、興味津々と前にメールくれましたが、現実味をおびてきました。いよいよ、産鉄民の神奈備山 三輪山 と卑弥呼の時代が結びついてくる。三輪山は山麓に古い製鉄遺跡のある鉄の山 三輪明神 大神神社（おおみわじんじや）は三輪山を御神体として、大物主神を祀る。「山と渓谷」3月号では 神社で許可をもらえばこの三輪山の頂上に立てる。その眺望はすばらしい・・と。全く意外 知りませんでした。本当に暖かくなるのが待ち遠しい。

2004. 2. 11. 一宮町安積 安積山製鉄遺跡の帰り  
播磨国の製鉄遺跡から日本誕生の和鉄の道に思いをめぐらしながら  
by Mutsuo Nakanishi

播磨風土記にある鉄の里「御方里」一宮町「三方」を訪ねて

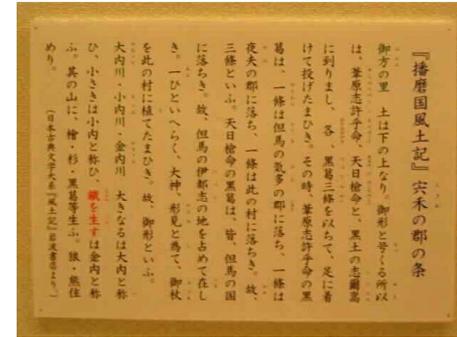
hrmka.htm by M. Nakanishi 2004.6.3.



播磨風土記の和鉄【2】 御方里周辺 (穴栗郡一ノ宮町安積)  
安積山製鉄遺跡(平安時代末期の製鉄遺跡) 探訪 2004.2.11.

- 1. 古代産鉄の地「讃容里」大撫山の夜明けと朝霧 佐用郡 佐用町
- 2. 古代産鉄の地「御方里」周辺 平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて 穴栗郡 一宮町 安積

【完】



播磨風土記に産鉄の記載がある御方里  
2004.6.3.

4月に平安末期の製鉄遺跡「安積山製鉄遺跡」を「播磨風土記に記載のある産鉄地」揖保川流域の「御方里」周辺・一宮町として紹介しました。

その安積山製鉄遺跡のところで揖保川が左右の引原川と三方川にわかれ、その右側上流にあたる三方・公文川流域一宮町「三方」が播磨風土記記載の「御形」現在の「御方里」の中心地。

そこには、揖保川の上流三方川山にさえぎられ、三つの谷からの流れに分流する公文川が流れている。播磨風土記にある大内・小内・金内川と考えられてきた。

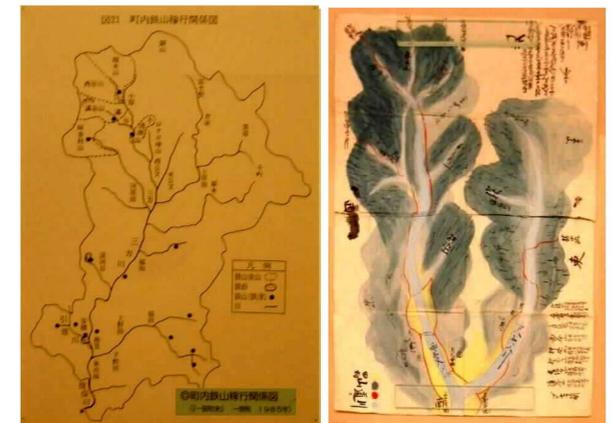
そして、これら公文川流域にも古くからのたたら製鉄の痕跡が残っている。山深い里でありながら、三方の扇状地の中央の丘には家屋遺跡があり、縄文・弥生時代から古墳時代へとずっと引き続いて集落があり、古代から中世には寝殿造りの立派な屋敷があり、この地がこの地方の中心地的存在であったと考えられる。

北の山間を縫って流れてきた左 引原川 右 三方川が安積山製鉄遺跡のところで合流した揖保川が山間を南に流れ下る。引原川の奥も三方川の奥もそれぞれ、古い製鉄地帯。またこの引原川流域から山一つ隔てた西が千種川流域の製鉄地帯である。

安積山製鉄遺跡のところから、狭い谷を三方川に沿って北へあがて行くと以外にも奥深い谷筋に沿って広い平野部広がり、その奥は北の山々が壁になっている。この山の幾筋かの谷筋から、川がこの扇状地にながれこむ。ここが三方で、谷は南にのみ開いている。この谷筋が古くは播磨風土記に記載がある産鉄地。また、この谷筋の製鉄地帯は江戸文化元年公文村山絵図として記録が残されている。

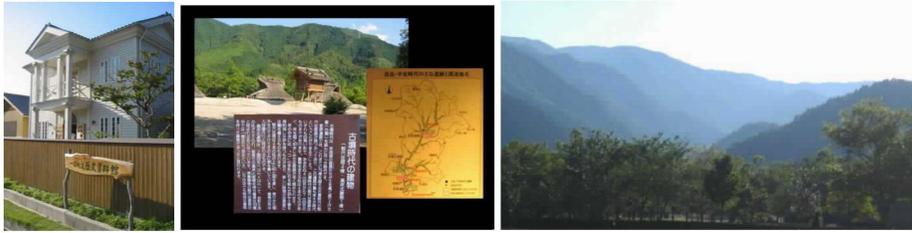
この「三方」の地からはいずれも山越えになるが、西には生野から但馬・丹後へ 北には但馬・伯耆そして、出雲へ 西には千種・美作 そして南には揖保川沿いに播磨へとつながる交通の要衝。

播磨・吉備・美作・伯耆・但馬・丹後と古代日本黎明の時代の中国山地に広がる大製鉄地帯を繋いでいる場所と見ることも出来る。



古代の和鉄の道の十字路にこの御方里が在ったのではないか・・・  
交通の便悪く中々いけませんでしたが、6月6日の午後やっと行ってきました。

私達が実際に出かけたのは 山崎からまっすぐ揖保川沿いに一宮町を通過して鳥取へ続く幹線国道ではなく、もう一つ西へ山並みを越えて、千種から、古代製鉄発祥伝説の地 岩野辺から山を越えて引原川の流域からまた、直接山を越えて三方に入った。  
山から山へ谷をトラバースする道 おそらく古代の和鉄の道 周辺の山々には点々と産鉄の地の痕跡があるという山越えの道。今は車1台がやっとの山越えで谷筋から谷筋へ渡る道。古代和鉄のイメージが膨らむ山道だった。



一宮町立歴史資料館と家屋遺跡群のある史跡公園 2004.6.3.

三方の中心の丘には家屋古墳群がひろがっており、周囲の山々が見渡せる。  
今ここには一宮町歴史資料館が建ち、縄文・弥生から古墳・古代・中世の住居群が復元され良く整備された史跡公園となっている。歴史資料館にはこの一宮町の古代からの歴史並びに播磨風土記に記された古代から近年にいたる揖保川流域の製鉄について、安積山製鉄遺跡を中心に企画展示されていた。  
このあたりの古代製鉄については、播磨風土記など伝承はあるもののきっちり製鉄遺跡として発掘調査整理されているのは安積山製鉄遺跡のみであり、その調査結果が展示されていた。  
一番知りたかった古代製鉄の三方での痕跡については学芸員の方にも聞きましたが、安積山製鉄遺跡以前の遺跡は今もまだ見つかっていないとの事でした。



平安時代末期の製鉄遺跡 安積山製鉄遺跡展示 町立歴史資料館 播磨の鉄 企画展示より

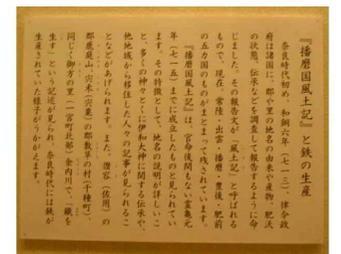
歴史資料館の少し北に行った山裾に播磨風土記に製鉄記事と共に記載があり、製鉄と関係深い大国主命を祭る御形神社がある。  
「御形」「三方(三條)」の地名の起りである。



大国主命を祭る御形神社 2004.6.3.

千種から古代産鉄の地をたどる形で山越えの道をとって播磨風土記の「御方の里」へ入ったこともあり、本当に山また山の山奥にぱっと開けた地に出る。  
古代においては表街道だろう日本海側からくると本当にそんな気持ちになったろう。  
そんな明るい地 古代和鉄の街道の十字路でなかったか・・・  
後背の山々を眺めながらそんなことを頭に浮かべていました。  
帰りは南へ三方川沿いに「御方の里」の中を下って行く。  
安積山製鉄遺跡の横へ出て、播磨一宮 伊和神社の森の横をそのまま一宮の町を山崎へ。 気持ちの良い一日だった。  
これで 随分長く引っかかっていた播磨風土記の鉄 千種岩野辺・敷草村 佐用・讃容 鹿庭山 一宮・穴粟 御方里 がやっとひとつにつながった。  
いずれも 出雲・大国主命の足跡と関係した古代の先進製鉄群。  
それらが盛衰を繰り返しながらも 大陸・朝鮮半島の技術を取り入れながらも大製鉄地へと発展してゆく。  
このドラマがどんなだったのか・・・  
今はまだわからないが、千草鉄として日本の刀を支えた播磨の鉄黎明の歴史である。

2004.6.3.  
夕日を横目に 揖保川沿いを姫路へ  
Mutsu Nakanishi



4.

奥播磨 古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡  
大坂家屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾鉄山遺跡を訪ねる 2016. 7. 20.



古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地の碑が建つ国道 429 号 岩鍋荒尾集落の入り口  
右手奥に近世の鉄山跡が眠る荒尾山が見えている 2016. 8. 20.

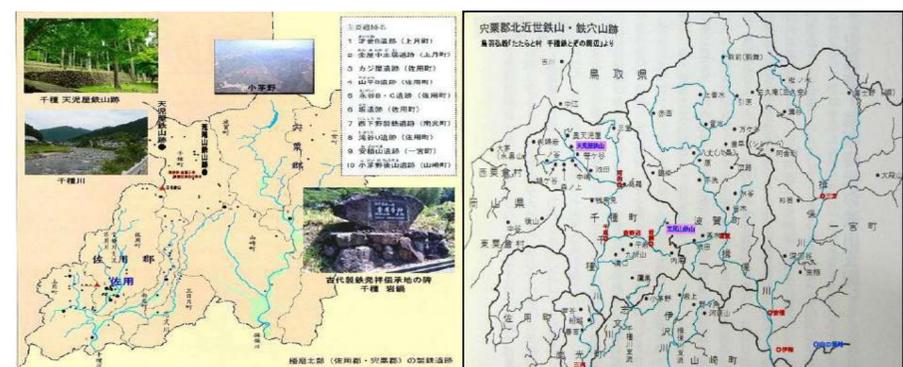
中国山地の峰が連なる古代からの奥播磨の製鉄地帯千種に是非訪ねたい製鉄遺跡がある。  
中国山地から南へ流れ下る千種川水系と揖保川水系に挟まれた源流部一帯の谷筋には 千種鉄・宍粟鉄と呼ばれる古代からの  
たたら郷 たたら跡が点在する。

二つの川を西の千種から鳥ヶ峠の山並みを隔てて東の波賀町青木へ結ぶ国  
道 429 号線。古くからのたたら郷を結ぶ街道である。  
その千種側から鳥ヶ峠を越える峠道にかかる荒尾山の麓 荒尾集落の入り  
口に「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」の碑があり、また すぐそばに、  
10 年ほど前から荒尾山鉄山跡の案内標識が立っている。  
この国道 429 号を通るたびに気になり、資料も読んでこともありますが、  
たたら跡の現場に立ったことはなし。ここから、荒尾山へ登る道が紹介さ  
れるようになり、その山歩き記録の中に たたら跡が紹介されているのを  
幾つも見つけ、道筋が分かったので ぜひ出かけよう。



7月20日早朝 山中の様子がよくわからないので、朝早く飛び起きて ワクワクで出かけてきた久しぶりの古代製鉄神 金  
屋子神降臨の伝承地千種「岩鍋」。やっと「荒尾山鉄山跡」を訪ねられたことに満足一杯でした。

奥播磨 佐用・宍粟の製鉄遺跡分布図



◆ 大坂泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋) 近世の荒尾鉄山遺跡



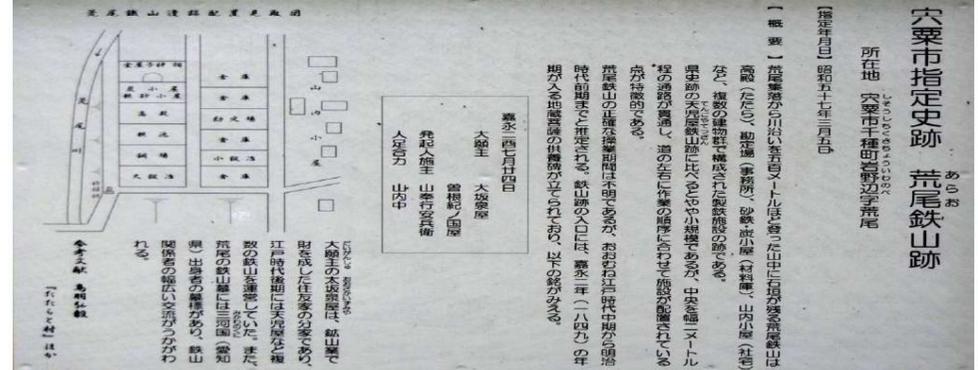
以前から国道 429 号線鳥ヶ此の山越え道を通る毎に気がかかっていたのですが、緑に包まれた山中に静かに残っていました。

夏の真っ青な空に堂々とした姿をくっきりと見せる鳥が吼の山々。緑の山中を流れる谷川 たたら郷 岩野辺。荒尾の集落の奥 杉木立に包まれた荒尾山の林道に分け入ると 水しぶきを上げる谷川に沿って 幾段にも並んだ石組みが現れた。遺跡入口には、足元に小さな石仏が祀られて大岩が仰々しく鎮座し、背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を思わせ、一層 この一帯が「古代製鉄神 金屋子神降臨伝承地」との強い結び付きを感じました。



古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千草岩鍋にある荒尾山鉄山製鉄遺跡 2016.7.20.

うれしい久しぶりの製鉄遺跡現地に身を置いて気分爽快。遺跡の石組みを思い浮かべつつ、満足感いっぱい。国道 429 号線の街道筋からは見えてこない 素晴らしいたたら郷がひっそりと緑に包まれてありました。





荒尾山鉄山跡 上部



ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」  
 営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩鍋の地のどんなどころで 鉄が吹かれたのか？」 興味津々でした。  
 緑に包まれた細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。本当に久しぶりに見る緑の中にうすもれたたたら跡 心地よい空間でした。

- ◎ 案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と区割りが示されていましたが、石組みの台地の上には間伐された杉の枝や葉が覆われてたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。
- ◎ ただ あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つも見つけることができました。荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中 余計に神々しく、遺跡背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を思わせ、一層 この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じました。

なお、登山者の記録にこの鉄山の金屋子神の祠があるとあったので あちこち鉄山の中を歩き回りましたが、見つけられませんでした。  
 (後日 千種町に照会しましたが、もう 今では祠跡はわからないでしょうということでした)  
 遺跡を後にして、荒尾集落を抜け、国道429号の集落入り口までどって来まして。



このすぐ東の鳥ヶ嶋をトンネルで抜けて、揖保川水系の波賀町に抜ける。この「嶋」 不思議な地名であるが、千種周辺には「嶋」とつく地名が多く、稜線越えの「峠」につけられた地名だという。  
 トンネルができるまでは鳥ヶ嶋の山の上まで登って、波賀町へ超える。難度がかつて超えたことはあるのですが、トンネルができてからは越えたことなく、久しぶりに 鳥ヶ嶋の山の上の峠まで行ってきました。



鳥ヶ嶋の由来の案内モニュメント 2016.7.20. 12:40



「嶋」の由来 国道429号線に下りトンネルで抜けている。2016.7.20. 12:40  
 荒尾山の鳥ヶ嶋の製鉄跡が埋もれている



「古代製鉄神 金屋子神伝承の地」碑が建つ岩野辺荒尾集落入口を眺めて千種へ 2016.7.20 12:49

7月20日 朝早く飛び起きて ワクワクで出かけてきた久しぶりの千種のたたら跡  
 古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」を訪ねられたことに満足一杯。  
 うれしい久しぶりの製鉄遺跡現地に身を置いて気分爽快。遺跡の石組みを思い浮かべつつ、満足感いっぱい。  
 国道 429 号線の街道筋からは見えてこない 素晴らしいたたら郷の緑に包まれてありました。  
 千種鳥ヶ峠の山並の山裾に広がるたたら郷 岩野辺の田園を眺めながら千種の街へ下ってゆく。

**奥播磨千種 製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡  
 大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋) 荒尾鉄山遺跡を訪ねる 2016.7.20.**



ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」  
 営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩鍋の地のどんなところで 鉄が吹かれたのか？」興味津々でした。また、この製鉄遺跡が、別子の銅山開発で発展し、財閥になった住友の流れの泉屋の分家、泉屋理助家が千種などで広く鉄山経営をしていたその千種の鉄山の一つであることにも。

住友グループの住金も新日鉄のグループに入って 住友グループから遠くなってしまっ、鉄の痕跡が消えていきそう。  
 相互に混じり合わぬ金属の水と油と 言われる鉄と銅。でも銅鉱石には常に鉄鉱石成分が混じり隣合う金属でもあり、  
 また 別子銅山でも銅から鉄の取り出しを試みたことがあると聞く。そんな金属商 泉屋の系譜の中にも、鉄商がある。  
 でも 泉屋と鉄のかかわりについてはよくわからず、住友の近代製鉄として取り上げられてきた。  
 でも この千種ばかりでなく、中国山地のたたら郷の里には ほかにも幾つか 泉屋の痕跡が残っている。  
 鉄商がどんな位置づけだったのかと 興味を抱いています。

緑に包まれた細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。  
 遺跡は私有地のためなのか、まだ詳細調査されぬままのようです。

- ◎ 案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と区割りが示されていましたが、石組みの台地の上には 間伐された杉の枝や葉が覆われてたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。ただ あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つか見つけました。
- ◎ 荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中 余計に神々しく 遺跡背後にそびえる荒尾山と相対する 磐 磐座を思わせ、一層 この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じています。そして、この入り口の大岩の下にある祠の地蔵尊の碑の裏には この鉄山の安全や繁栄を願う願主 泉屋の名が刻まれている。「鉄」と「銅」は常に隣り合う金属・鉱石であり、金属取り出しの製錬にも共通技術があったはず。「分家とは言いながら技術の展開の中で、泉屋の分家が 鉄商を一括して担ってきたのではなかったか?」と 常々思いを巡らしてきました。「鉄」と「銅」の近い関係を視点に 住友・泉屋が担った地域の産業育成・地域振興の役割などについても さらにたたら跡がペールを脱げば 明らかになってゆくのではないかと期待している。

近い将来この遺跡や周辺がきっちり調査され、この岩鍋の地の製鉄伝承が もっとクリヤーになっていくこにも期待したい。  
 暑い日、快晴の午後 たたら郷千種の風を受けながら 久しぶりにたたら遺跡跡に立てた満足感一杯で千種を後にする

2016.7.20. 午後 満足感一杯で 千種川沿い原チャリを走らせながら

**参考資料**

1. 鳥羽弘毅氏著「たたらと村 千草鉄とその周辺で」 1997.3.10. 千種町教育委員会
- 2.【和鉄の道・Iron Road】 by Mitsu Nakanishi  
 西播磨の古代製鉄地帯 宍粟・佐用の製鉄関連遺跡 探訪 関連掲載
3. 古代鉄の大王国 播磨国「千種鉄」「岩鍋」古代製鉄神 金屋子神 降臨伝承の地 <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/jstlibb01.pdf>
4. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる 2013.7.19. 千種天見屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる <http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1308schigusa00.htm>
5. 奥播磨 千種川に注ぐ志文川原流 たたら郷 宍粟市山崎町小茅野(こがいの) 集落を訪ねる 2010.7.20 . <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf>
6. たたら郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる 2009.6.21. 奥播磨黒尾山西北山麓 宍粟市山崎町 野々隅原 大國牧場 花のWalk <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf>
7. たたら製鉄 砂鉄採取の地形 西播磨 砥峰高原 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原 2007.10. <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf>
8. 産鉄の地「御方里」の里を訪ねて 一宮町 2004.6. <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf>
9. 「御方里」周辺 安福山製鉄遺跡探訪 一宮町 2004.2. <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf>
10. 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて 2003.11. <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf>











